滋賀医科大学 博士課程教育リーディングプログラム

アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト 報告書 平成25年10月ー令和２年３月31日

NCD

Shiga University of Medical Science

Leading Graduate Program for Reducing the Burden of

Non-communicable Disease(NCD) in the Asian Pacific Region Report 2013-2020

国立大学法人
滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

目　次（Contents）

はじめに ･････････････････････････････ 1

1．プログラムの概要
・プログラムの概要 ････････････････････ 5
・アドミッションポリシー等について ････････････ 6
・プログラムの特色 ････････････････････ 8
・カリキュラム ･･････････････････････ 9
・プログラム担当者一覧 ･････････････････ 11
・運営ワーキンググループメンバーリスト ･･･････････ 16

2．実施状況
・受入れ学生および指導教員 ････････････････ 19
・学外研究機関短期研修 ･････････････････ 21
・アジア・フィールドワーク ････････････････ 24
・外部講師一覧 ･････････････････････ 27
・研究基礎力試験 (QE:Qualifying Examination) ･････････ 33
・学位予備審査 ･････････････････････ 35
・外部評価委員会 ････････････････････ 37
・プログラムオフィサー(PO)の現地訪問 ･･････････････ 42
・発展型アジアNCD超克SUMS留学生プログラム ･････････ 44
・学生への支援状況 ････････････････････ 45

3．学生の活動状況
・学生の研究課題一覧 ･･････････････････ 49
・学外短期研修／健康関連産業研修 実績 ････････････ 51
・アジア・フィールドワーク 実績 ･･･････････････ 55
・学会発表実績 ･････････････････････ 57
・研究論文一覧 ･････････････････････ 62
・学生生活 ･･･････････････････････ 65
・学生の主な就職先 ････････････････････ 67

4．今後の展開
・NCD疫学リーダーコース ･････････････････ 71
・研究基礎力試験:QE(Qualifying Examination)の横展開 ･･････ 72
・リーディングプログラム生のネットワークの構築 ････････ 72

おわりに ･････････････････････････････ 73

はじめに

博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」は、平成25年度に採択され、令和元年度までの７年間にわたって実施してきました。滋賀医科大学「アジア疫学研究センター」を中心に全学体制で推進し、多くの大学院生を教育し、質の高い研究成果を挙げてきました。滋賀医科大学で実績を積んできたNCD疫学研究の基盤を最大限に活用し、疫学研究の方法論、NCD予防のための社会実装と政策立案のための構想力、研究者や行政官に必要なリーダーシップを涵養する教育を行い、修了者は、大学や各国の公衆衛生行政などの現場で活躍しています。

NCDは、かつては先進国の病気とされていましたが、今や全世界的に重要な公衆衛生上の課題となり、特にアジア新興国で深刻な健康問題を引き起こしています。従って、NCDの克服と予防は、21世紀における人類の最重要健康課題の一つと位置づけられます。本リーディングプログラムの修了生が、NCD問題の解決のため、世界で活躍することを期待しています。

本リーディングプログラムは、関連分野の教育・研究の発展に大きく役立ちましたが、同時に本プログラムのおかげで滋賀医科大学の組織改革が進み、令和２年度には「NCD疫学研究センター」が発足します。引き続き、同センターを中心に、これまで行ってきた教育・研究を継続発展させていく所存です。

プロジェクト終了にあたり、ご指導賜りましたフォローアップ担当委員の先生方、プログラムオフィサーの那須民江先生に深く感謝申し上げます。

塩田　浩平
全体責任者
滋賀医科大学　学長

「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」は博士課程教育リーディングプログラムのオンリーワン型に採択され、７年間にわたり本学博士課程の主要な教育プログラムとして運営されてきました。本学の生活習慣病疫学研究の基盤を最大限に活用して、主としてアジアで活躍するNCDに対する疫学的知識、現場対応能力を有するグローバルリーダーの育成を行ってきました。一方で、アジアを中心とする留学生を多く受け入れ、日本人学生との相互理解を通して、教育の国際化も促進してきました。

上記の実績を踏まえ、本教育プログラムの定着・発展のためにアジア疫学研究センターと社会医学講座の再編成を行い、「NCD疫学研究センター」を設置する方向です。さらに、当センターを教育基盤とする「NCD疫学リーダーコース」を新たな大学院コースとして開始する運びとなりました。今後はコースの内容を充実させながら、グローバルに活躍するリーダーを引き続き育成してまいります。

小笠原　一誠
プログラム責任者
滋賀医科大学　副学長

1

プログラムの概要

Outline of the program

Leading Graduate Program for Reducing the Burden of
Non-communicable Disease（NCD）in the Asian Pacific Region

プログラムの概要

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員･学生を結集し、産･学･官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する文部科学省の事業です。

養成すべき人材像及び解決すべき課題の分類に応じ、「オールラウンド型（オールラウンドリーダー養成）」「複合領域型（複合領域リーダー養成）」「オンリーワン型（オンリーワンリーダー養成）」の３つの類型があり、本学の「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」はオンリーワン型として平成25年度に採択されました。

博士課程教育リーディングプログラムでは、次のような力量を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成することを明確に設定しています。

① 確固たる価値観に基づき、他者と協働しながら、勇気を持ってグローバルに行動する力
② 自ら課題を発見し、仮説を構築し、持てる知識を駆使し独創的に課題に挑む力
③ 高い専門性や国際性はもとより幅広い知識をもとに物事を俯瞰し本質を見抜く力

このプログラムでは以下のようなリーダーを育成します。

1）非感染性疾患（NCD）に関する医学的知識、疫学方法論、生物統計学の高度な技術、アジアの公衆衛生改善に対する構想力を兼ね備えた、バランスのとれたリーダー

2）英語コミュニケーションに熟達し論理的議論が出来る国際人（グローバルリーダー）

3）大規模疫学研究、国際共同研究を体験し一流の研究能力を持つアカデミックリーダー

4）健康関連産業や保険医療行政機関で活躍する現場力を持つダイナミックリーダー

5）産学官を横断する人的ネットワークをもつリーダー

アドミッションポリシー等について

● アドミッションポリシー

アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクトは、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」事業のオンリーワン型として平成25年度に採択された大学院博士課程のプログラムです。非感染性疾患（Non-Communicable Diseases、NCD）は、がん、脳心血管疾患およびその危険因子である糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病の増加という形で顕在化し、アジア新興国において特に深刻な健康問題となってきています。本プロジェクトは、本学アジア疫学研究センターをはじめとする充実した生活習慣病疫学研究の基盤を活用し、アジア新興国におけるNCD問題の解決と健康寿命の延伸を推進するトップリーダーを育成するプロジェクトです。履修においては、アジアをはじめとする異文化社会に適応できる協調性を有し、英語による講義・実習に対応できる語学力を持つことが必要です。アジアにおけるNCDの克服のための強い意欲と高い使命感・倫理観を持ち、行動するリーダーを目指す人材を求めます。

● カリキュラムポリシー

英語で論理的議論ができるグローバルリーダーを養成する目的で、英語コミュニケーションを重視したプログラムを編成します。アジア疫学研究センターを中核にすえ、非感染性疾患（Non-Communicable Diseases、NCD）に関する医学的知識、疫学的方法論、生物統計学の高度な技術、アジアの公衆衛生改善に対する構想力を兼ね備えたバランスある学術能力を養成するカリキュラムを実施します。アジアからの留学生と日本人学生がグループを組み国内外の教員と議論しながら自発的に学ぶ少人数ワークショップや、アジアおよび欧米諸国での短期研修・フィールドワークを実施し、国際的センスをもつ「行動するトップリーダー」の育成を行います。

● ディプロマポリシー

博士課程リーディングプログラムのカリキュラムポリシーに沿った教育研究課程を履修し、必要な単位を修得し、国際的学術誌に博士論文を発表した上で、外国人を含む外部評価委員を加えた審査委員会での最終試験に合格することが博士号取得の要件です。非感染性疾患（Non-Communicable Diseases、NCD）に関する医学的知識、疫学的方法論、生物統計学の高度な技術、そしてアジアの公衆衛生のリーダーたる構想力の３つを兼ね備え、英語コミュニケーションに熟達し、英語で論理的議論ができるとともに、アジアをはじめとする世界で活躍できる実行力と協調性・倫理性を身につけていることが修了の基準です。

履修方法

第１～４学年において、コア領域の必修科目から16単位及び選択必修科目から４単位以上、支援領域の選択必修科目から２単位以上、実習の必修科目から６単位及び選択必修科目から２単位以上をそれぞれ履修するものとする。

研究基礎力試験（Qualifying Examination）

２年次終了時において、研究基礎力試験QE（Qualifying Examination）を実施します。QEは博士論文研究を主体的に遂行できる基礎力を身につけているか包括的に審査する仕組みです。１年次および２年次に履修した必修科目の筆記試験と研究計画の発表、および口頭試問を行います。３年次への進級の可否は、１年次および２年次に履修した科目の単位数・成績とQEの結果を基に総合的に決定します。

学位授与

１．修業年限は４年を標準とします。
２．学位の種類は「博士（医学）」学位記に「アジアNCD超克プロジェクト修了」とします。
３．学位は、大学院に４年以上在学し、上記履修方法により30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文審査及び最終試験に合格した者に授与します。
４．学位審査の申請手続きは、滋賀医科大学博士課程の申請手続きに準じます。ただし、本コース（リーディング大学院）の在籍者は、事前に本コース内の論文審査、口頭試問を受け、滋賀医科大学博士課程の学位審査申請の承認を得るものとします。

プログラム在籍者への経済支援

本プログラムには、プログラム所属学生が経済的な負担を軽減され、より学業に専念できるよう、月額15万円を基準とした奨励金制度があります。原則として、プログラム所属学生全員に支給しますが、審査のうえ、支給の可否や支給額を決定します。また、研究の進捗状況や学業成績をもとに、１年ごとに支給の継続を審議し、停止することもあります。

上記QEの結果、３年次への進級を認められない場合等は、奨励金は支給されません。

プログラムの特色

● 国内唯一のNCD疫学の国際教育研究拠点（アジア疫学研究センター：CERA）を中核にすえた教育研究指導

本学は国内唯一のNCD疫学の国際教育研究拠点「アジア疫学研究センター」が設置されています。我が国の生活習慣病疫学研究において中心的な役割を担ってきた本学が有する大規模NCD疫学データベース、およびアジア疫学研究センターという教育研究施設を最大限に活用した独創的かつ世界レベルの大学院教育・研究指導を実施します。

● 国際的センスを持つ「行動するトップリーダー」の育成

本学が有する多彩なグローバルネットワークを活用し、欧米・アジア等の提携校・研究機関・行政機関・健康関連企業における「武者修行」をプログラムの一環として組み入れます。

アジアの公衆衛生現場での「アジア･フィールドワーク」を通じ、アジアのNCD対策リーダーとしての資質を養います。

● 英語コミュニケーションを重視したカリキュラム

国際的に著名な疫学研究者・生物統計家の雇用または短期間招聘により、教育・研究指導の国際化を図ることで、英語ディベートに代表される、論理的議論を英語でできるグローバルリーダーを養成します。

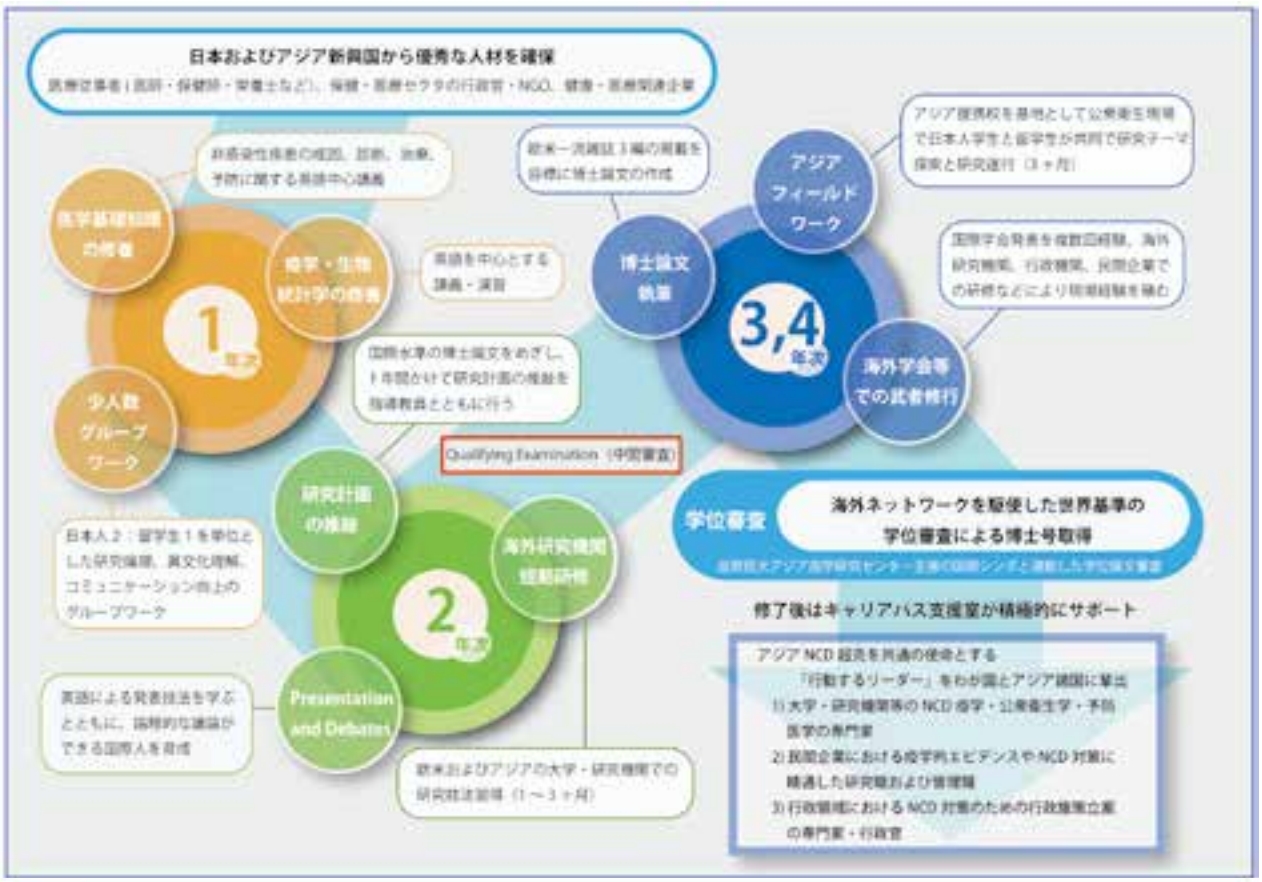
● 単科医科大学のもつ機動性を生かした教育体制

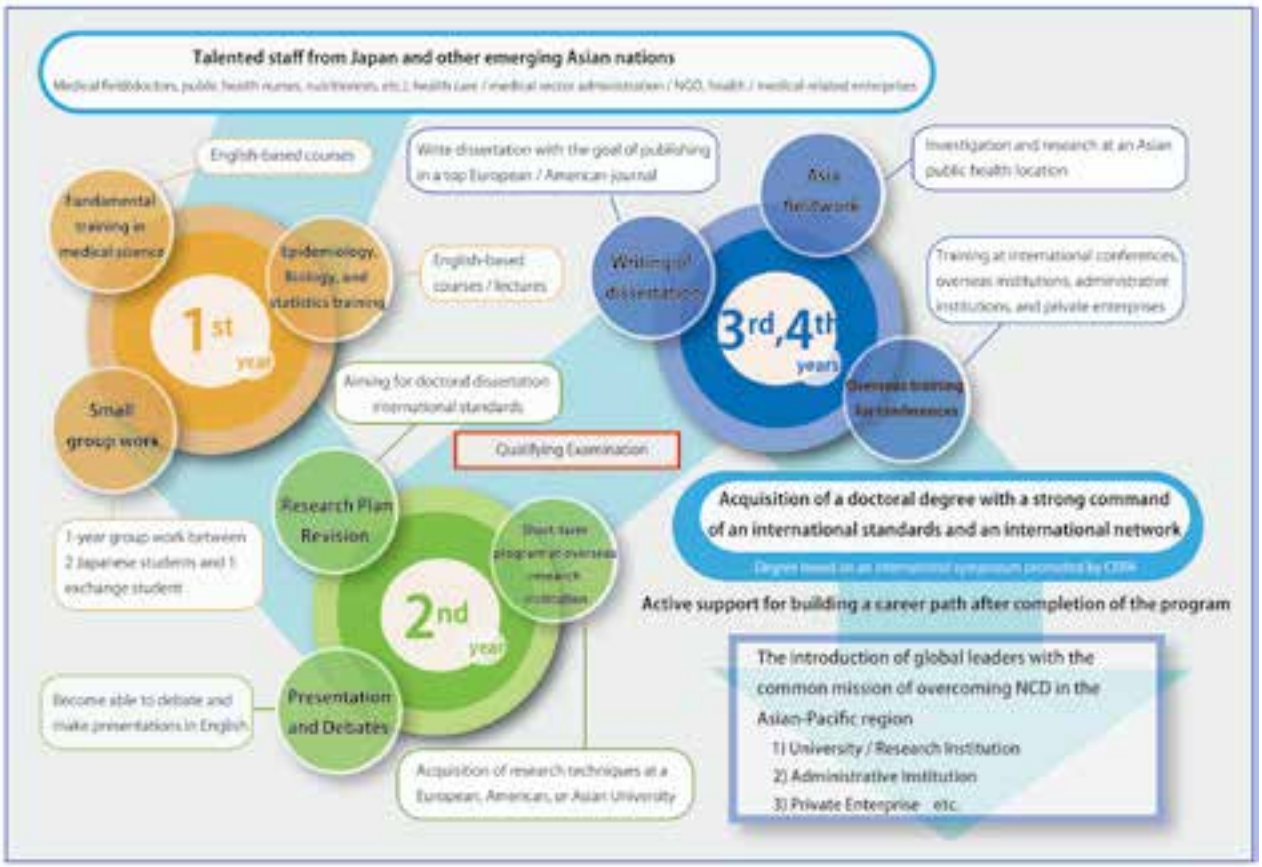
大学院教育システムの再構築を行い、先端医学研究者コースに「アジアNCD超克プロジェクト」を新設し、学内の教育資源、研究資源を重点的に投入して、全学的な動員体制のもと、機動的かつ横断的に各専門分野の教育を行います。また、従来の講義ベースから研修ベースの大学院教育に転換することで、より実践的なプログラムを目指します。

● 奨励金

本プログラムには、プログラム所属学生が経済的な負担を軽減され、より学業に専念できるよう、月額15万円を基準とした奨励金制度があります。原則として、プログラム所属学生全員に支給しますが、審査のうえ、支給の可否や支給額を決定します。

カリキュラム／ Curriculum





● 履修科目表

博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」

領域	クラスタ	授業科目名	授業形態(講義・演習・実習の別)	配当学年	期別 前期	期別 後期	単位数	時間数（1単位あたり講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	授業担当教員 主担当	授業担当教員 担当
コア領域	公衆衛生クラスタ	公衆衛生学概論	講義	1	通年		2	30	必修	◎三浦	
		保健医療行政論	講義	2	通年		2	30	必修	◎三浦	角野（学外）、垰田
		研究計画の鍛錬	演習	2	通年		2	30	必修	◎指導教員	
	医学統計クラスタ	疫学研究概論	講義	1	通年		2	30	必修	◎三浦	宮松、Elliott（学外）、藤吉（学外）
		臨床試験概論	講義	1	通年		2	30	必修	◎田中佐	西、久津見、有馬（学外）、貝瀬（学外）
		生物統計学概論	講義	1	通年		2	30	必修	◎田中佐	
	NCD疫学クラスタ	循環器疾患・神経疾患疫学総論	講義	1	通年		2	30	選択必修	◎門田	遠山、中川、山本孝、有馬（学外）、大野（学外）
		がん・呼吸器疾患疫学総論	講義	1	通年		2	30	選択必修	◎中野	安藤、醍醐、松尾恵（学外）、清水猛、河内、木村、小川
		糖尿病・腎臓病疫学総論	講義	1	通年		2	30	選択必修	◎門田	関川（学外）、松下（学外）
		社会疫学総論	講義	2	通年		2	30	選択必修	◎三浦	西信（学外）
	国際交流クラスタ	アジア文化・倫理の理解	演習	1	通年		2	30	必修	◎室寺	三浦
		発表技法と熟議	演習	2	通年		2	30	必修	◎相浦	室寺、田中佐、門田
支援領域	NCD臨床クラスタ	循環器疾患・神経疾患臨床総論	講義	1	通年		1	15	選択必修	◎野﨑	遠山、中川、漆谷、山本孝、川合、辻篤
		がん・呼吸器疾患臨床総論	講義	1	通年		1	15	選択必修	◎安藤	谷眞、醍醐、中野、木村、花岡
		糖尿病・腎疾患臨床総論	講義	2	通年		1	15	選択必修	◎前川	荒木、卯木
	海外技術支援クラスタ	医療技術開発と海外技術移転	講義	2	通年		1	15	選択必修	◎大田	新田、木下、園田
		地域医療・看護学概論	講義	2	通年		1	15	選択必修	◎杉本喜	宮松、伊藤、荻田
		基礎医学概論	講義	1	通年		1	15	選択必修	◎扇田	等、小島秀、西、宇田川、縣、杉原、一杉
		産業医学	演習	1	通年		1	15	選択必修	◎垰田	
実習		学外研究機関短期研修	実習	2	通年		2	60	選択必修	◎指導教員	
		健康関連産業研修	実習	2	通年		2	60	選択必修	◎指導教員	中嶋（学外）、貝瀬（学外）
		アジア・フィールドワーク	実習	3	通年		2	60	必修	◎指導教員	
		学外武者修行	実習	4	通年		4	120	必修	◎指導教員	

【履修方法】
第１～４学年において、コア領域の必修科目から16単位及び選択必修科目から４単位以上、支援領域の選択必修科目から２単位以上、実習の必修科目から６単位及び選択必修科目から２単位以上を、それぞれ履修するものとする。

プログラム担当者一覧

平成31年４月１日現在

氏　名	所　属／職　名	専　門／学　位
全体責任者		
塩田　浩平	学長	解剖学 医学博士
プログラム責任者		
小笠原　一誠	副学長 （教育・研究等担当理事）	病理学 医学博士
プログラムコーディネーター		
三浦　克之	社会医学講座（公衆衛生学）教授 アジア疫学研究センター長	循環器疾患疫学・公衆衛生学 博士（医学）
プログラム担当者		
室寺　義仁	医療文化学講座（哲学） 教授	インド仏教学 博士（学術）
相浦　玲子	医療文化学講座（英語） 教授	英語・英文学、 異文化コミュニケーション 文学修士
等　誠司	生理学講座（統合臓器生理学） 教授	生理学 博士（医学）
縣　保年	生化学・分子生物学講座（分子生理化学） 教授	分子生物学、免疫学 博士（医学）
扇田　久和	生化学・分子生物学講座（分子病態生化学） 教授	生化学 博士（医学）
西　英一郎	薬理学講座 教授	薬理学 博士（医学）

氏　名	所　属／職　名	専　門／学　位
中川　義久	内科学講座（循環器内科） 教授	循環器内科学 医学博士
中野　恭幸	内科学講座（呼吸器内科） 教授	呼吸器疾患（特にCOPD） 博士（医学）
安藤　　朗	内科学講座（消化器・血液内科） 教授	粘膜免疫学 博士（医学）
前川　　聡	内科学講座（糖尿病内分泌・腎臓内科） 教授	内分泌代謝学 医学博士
漆谷　　真	内科学講座（脳神経内科） 教授	神経内科学 医学博士
谷　　眞至	外科学講座（消化器・乳腺・一般外科） 教授	消化器外科学 博士（医学）
鈴木　友彰	外科学講座（心臓血管・呼吸器外科） 教授	成人心臓血管外科全般 博士（医学）
野﨑　和彦	脳神経外科学講座 教授	脳神経外科学 医学博士
村上　　節	産科学婦人科学講座 教授	産科学婦人科学 博士（医学）
醍醐弥太郎	臨床腫瘍学講座 教授	腫瘍学 博士（医学）
久津見　弘	臨床研究開発センター 教授	消化器内科学・臨床試験 博士（医学）
遠山　育夫	神経難病研究センター 教授	神経科学 医学博士
宮松　直美	臨床看護学講座（成人） 教授	成人保健学・疫学 博士（保健学）

氏　名	所　属／職　名	専　門／学　位
伊 藤 美樹子	公衆衛生看護学 教授	公衆衛生看護学 博士（保健学）
門 田　　文	社会医学講座（公衆衛生学） 准教授	内科学・循環器疫学 博士（医学）
田 中 佐智子	社会医学講座（医療統計学） 准教授	医療統計学 博士（保健学）
荒 木　信 一	内科学講座（糖尿病内分泌・腎臓内科） 准教授	腎臓内科学 博士（医学）
椎 野　顯 彦	神経難病研究センター 准教授	脳神経外科学 博士（医学）
杉 本　喜 久	医療情報部 准教授	医用電子工学 医学博士
大 田　信 一	放射線科 講師	IVR、腹部画像診断 博士（医学）
関 川　　暁	ピッツバーグ大学公衆衛生大学院 （疫学部） 准教授	循環器疾患疫学 博士（医学）・博士（学術）
有 馬　久 富	福岡大学医学部衛生・公衆衛生学 教授	循環器疾患学 博士（学術）
Elliott, Paul	インペリアル・カレッジ・ロンドン 教授	循環器疾患疫学 博士（学術）
角 野　文 彦	滋賀県健康福祉部 理事（健康・医療政策担当）	公衆衛生学 修士（公衆衛生学）
西　　信 雄	国立健康・栄養研究所 国際栄養情報センター長	社会疫学 博士（医学）
松 尾 恵太郎	愛知県がんセンター研究所 がん予防研究分野・分野長	がん疫学 博士（医学）

氏　名	所　属／職　名	専　門／学　位
松下　邦洋	ジョンズ・ホプキンス大学 准教授	腎臓疫学・循環器疫学・ 国際共同研究 博士（医学）
中嶋　宏	オムロン（株）技術・知財本部 技術専門職	情報工学（ソフトコンピューティング・データ解析） 博士（工学）
貝瀬　俊彦	グラクソ・スミスクライン（株）開発本部 ヘルスアウトカムズ部長	循環器・代謝部門の臨床開発 博士（医学）
藤吉　朗	和歌山県立医科大学衛生学講座 教授	臨床疫学・予防医学 博士（医学）
大野　聖子	国立循環器病研究センター 分子生物学部長	循環器内科学 博士（医学）

● 過去の担当者等

全体責任者	馬場　忠雄（学長）	平成25年10月～平成26年３月
プログラム責任者	服部　隆則（副学長（教育等担当理事））	平成25年10月～平成26年３月
	堀池　喜八郎（副学長（教育・研究等担当理事））	平成26年４月～平成28年３月
	山田　尚登（副学長（教育･広報･渉外等担当理事））	平成28年４月～平成30年３月
プログラム担当者	Abbott, Robert Douglas（特任教授）	平成25年10月～平成30年８月
	上島　弘嗣（特任教授）	平成25年10月～平成31年３月
	谷　徹（教授）	平成25年10月～平成26年３月
	三ッ浪　健一（教授）	平成25年10月～平成26年３月
	村上　義孝（准教授）	平成25年10月～平成26年３月
	喜多　義邦（助教）	平成25年10月～平成26年３月
	岩瀬　隆之（グラクソ・スミスクライン㈱）	平成25年10月～平成27年９月
	川畑　摩紀枝（教授）	平成25年10月～平成28年３月
	岡村　富夫（教授）	平成25年10月～平成28年３月
	宇津　貴（准教授）	平成25年10月～平成28年６月
	小森　優（教授）	平成25年10月～平成31年３月
	浅井　徹（教授）	平成25年10月～平成31年３月
	村田　喜代史（教授）	平成25年10月～平成31年３月
	永田　啓（教授）	平成25年10月～平成31年３月

運営ワーキンググループメンバーリスト

平成31年４月１日現在

氏　名	所　属	職　名
小笠原　一　誠	理事（教育・研究等担当）	副学長
三　浦　克　之	社会医学講座（公衆衛生学）	教授
遠　山　育　夫	神経難病研究センター	教授
縣　　保　年	生化学・分子生物学 （分子生理化学）	教授
相　浦　玲　子	医療文化学講座（英語）	教授
扇　田　久　和	生化学・分子生物学講座 （分子病態生化学）	教授
前　川　　聡	内科学講座 （糖尿病内分泌・腎臓）	教授
安　藤　　朗	内科学講座（消化器・血液）	教授
野　﨑　和　彦	脳神経外科学講座	教授
宮　松　直　美	臨床看護学講座（成人）	教授
田　中　佐智子	社会医学講座（医療統計学）	准教授
門　田　　文	社会医学講座（公衆衛生学）	准教授

2

実施状況

Program status

Leading Graduate Program for Reducing the Burden of
Non-communicable Disease（NCD）in the Asian Pacific Region

受入れ学生および指導教員

入学年月	入学者数	指導教員		所　属	国　籍	学　位
2014.10	3名	野崎	有馬	脳神経外科学講座	Indonesia	MD
		Abbott	三浦	アジア疫学研究センター	Vietnam	MD
		三浦	門田	社会医学講座 (公衆衛生学)	Kenya	Msc.
2015.4	5名	上島	三浦	アジア疫学研究センター	Japan	PhD Applied life science Registered Dietitian
		中野	Abbott	内科学講座 (循環器・呼吸器内科)	Vietnam	Master of Health Economics
		門田	等	アジア疫学研究センター	Japan	PhD Applied life science Registered Dietitian
		堀江	有馬	内科学講座 (循環器・呼吸器内科)	Vietnam	MD
		三浦	有馬	社会医学講座 (公衆衛生学)	China	Master Occupational & Environmental Health
2015.10	1名	野崎	高嶋	脳神経外科学講座	Japan	MD
2016.4	6名	藤吉	Abbott	アジア疫学研究センター	Bangladesh	MBBS(Bachelor of Medicine and Bachelor of Surgery), MPH., MSc.
		門田	Abbott	アジア疫学研究センター	Bangladesh	MBBS, MPH
		三浦	宮松	社会医学講座 (公衆衛生学)	Japan	Nurse, Master of Nursing
		上島	大野	アジア疫学研究センター	Japan	MD
		前川	門田	内科学講座 (糖尿病内分泌・腎臓内科)	Japan	MD
		上島	田中	アジア疫学研究センター	Japan	Master of Nutritional Science Registered Dietitian
2016.10	2名	椎野	藤吉	神経難病研究センター	Indonesia	MD
		大野	三浦	アジア疫学研究センター	Japan	Master of Business Administration
2017.4	4名	門田	Abbott	アジア疫学研究センター	Bahrain	Master of Molecular Oncology
		大野	三浦	アジア疫学研究センター	Japan	Master of Physiotherapy
		浅井	藤吉	外科学講座 (心臓血管・呼吸器外科)	Bangladesh	MBBS, Cardiology
		田中	上島	社会医学講座 (医療統計学)	Japan	Pharmacist

入学年月	入学者数	指導教員		所　属	国　籍	学　位
2017.10	3名	大野	上島	アジア疫学研究センター	Bangladesh	MD
		浅井	藤吉	外科学講座 (心臓血管・呼吸器外科)	Vietnam	MD Master in Cardiothoracic Surgery
		門田	三浦	アジア疫学研究センター	Bangladesh	Master of Philosophy(Medical Science)
2018.4	8名	谷	藤吉	外科学講座 (消化器・乳腺・一般外科)	Indonesia	MD
		三浦	門田	社会医学講座 (公衆衛生学)	Mongolia	Master of Science in Medicine, Medical Doctor of Oriental Medicine
		谷	藤吉	外科学講座 (消化器・乳腺・一般外科)	China	MD
		醍醐	門田	臨床腫瘍学講座	China	MD
		三浦	門田	社会医学講座 (公衆衛生学)	Malaysia	Master of Clinical Pharmacy Pharmacist
		醍醐	門田	臨床腫瘍学講座	Mongolia	MD(Pediatric oncology) Master of Sciences in Medicine
		村上	三浦	産科学婦人科学講座	Japan	MD (Obstetrics & gynecology)
		田中	三浦	社会医学講座 (医療統計学)	Mongolia	Master of Science in Pharmacy Phamacist
2018.10	1名	田中	三浦	社会医学講座 (医療統計学)	Vietnam	Master of Public Health
2019.4	3名	三浦	門田	社会医学講座 (公衆衛生学)	Bangladesh	MBBS Master of Philosophy
		三浦	田中	社会医学講座 (公衆衛生学)	Japan	PhD Applied life science Registered Dietitian
		前川	門田	内科学講座 (糖尿病内分泌・腎臓内科)	Vietnam	Master in Biomedical science (Preventive Medicine)
2019.10	1名	三浦	門田	社会医学講座 (公衆衛生学)	Malaysia	Master in Science Medicine

※指導教員：入学時点

学外研究機関短期研修／Global Research Training

Outline of the curriculum

The Global Research Training is an externship, a part of the official curriculum of *the Leading Graduate Program for Reducing the Burden of Non-Communicable Disease (NCD) in Asian-Pacific Region,* at Shiga University of Medical Science, Shiga, Japan.

This curriculum is designed to train doctoral (PhD) students to become world-class leaders in overcoming NCDs in the Asian-Pacific region. Global Research training is provided to second-year PhD students who have successfully completed the core areas of the curriculum, including fundamentals of public health, epidemiology, biostatistics and clinical medicine.

For further details, please visit the following website: https://cera.shiga-med.ac.jp/ncdlead/en/index.html.

Goal

The goal of the Global Research Training is to expose our students to a state-of-the art research environment, typically in regions/countries such as, North America, Europe, Australia, China, and Japan (outside our campus). This externship is not a clinical clerkship and there is no need for an accepting institution to provide our student with an official credit or transcript.

Expectations for the student

Students spend 1 to 2 months (typically only 1 month) learning various aspects of NCD prevention, including methodology and practical aspects of world-level epidemiological research relevant to NCD prevention, health promotion, public health policy, and health-related law/regulation.

Students are highly encouraged to participate in work being conducted at an accepting institution and to attend conferences (as an observer) in order to expose themselves to different techniques and viewpoints, generate novel ideas, and gain hands-on experience relevant to NCD prevention. Students are also encouraged to present his/her on-going research at the accepting institution, and discuss with staff members, researchers, and students to obtain a deeper level of understanding of his/her own research.

Upon returning from the externship, students must submit a report describing his/her experience during their externship without delay.

Financial Support

The program supports travel fees and accommodation for the stay. The accepting institution need not provide students with any financial support, although recommendations for accommodation may be welcomed.

学外研究機関短期研修　―評価表―

Shiga University of Medical Science Leading Graduate Program
REDUCING THE BURDEN OF NON-COMMUNICABLE DISEASE
IN THE ASIAN PACIFIC REGION

STUDENT EVALUATION FORM

This form is to be completed and signed by the on-site internship supervisor. Please send the completed form to the Administration Office either by email, or by fax. If you are concerned about the privacy of the form you may mail to address below.

Administration Office

Email: ncdlead@belle.shiga-med.ac.jp　Fax: +81-77-543-4800.

Address: Center for Epidemiologic Research in Asia, Shiga University of Medical Science

SetaTsukinowa-cho, Otsu, Shiga, 520-2192, JAPAN

EVALUATION OF (Student Name) _____

Supervisor's Name _____

Supervisor's Email _____

Please rate using the following key:

1=unsatisfactory; 2=needs improvement; 3=satisfactory; 4=above average; 5=outstanding

Quality of Research (accurate and thorough)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Takes initiative (ability to research independently)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Grasp of subject (understanding of applicable standards and procedures)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Interpersonal relations/teamwork (effectiveness in working with peers and supervisors)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Problem solving/critical thinking skills

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Dependability　Punctuality　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Attendance　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Communication skills　Verbal　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Written　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

学外研究機関短期研修　―評価表―

Student Evaluation Continued

Were the goals of the internship met?

What skills do you think this student developed?

What were the student's primary strengths?

What recommendations would you suggest for his/her improvement?

What is your overall assessment of the student's performance?

Other Comments

Supervisor Signature_____ Date_____

アジア・フィールドワーク／Fieldwork in an Asian-Pacific region

Outline of the curriculum

This fieldwork is a part of the official curriculum of *the Leading Graduate Program for Reducing the Burden of Non-Communicable Disease (NCD) in Asian-Pacific Region,* at Shiga University of Medical Science, Shiga, Japan. The graduate program is designed to train doctoral (PhD) students to become world-class leaders for overcoming NCDs in the Asian-Pacific region. Global Research training is provided to third-year PhD students who have successfully completed the core areas of the curriculum, including fundamentals of public health, epidemiology, biostatistics and clinical medicine.

For further details, please visit the following website: https://cera.shiga-med.ac.jp/ncdlead/en/index.html.

Aim of the Fieldwork

The aim is to provide the doctoral student an opportunity to explore and learn from real world situations in his/her field of interest, which involves public health practice or research.

It is provided to the third-year PhD student who has completed the core areas of the curriculum such as fundamentals of public health, epidemiology, biostatistics and clinical medicine.

In a typical case, students spend one to three months in their home country or region.

Goals and Expectations

The goals are (1) To obtain some practical experience in either public health practice and/or research relevant to NCD prevention such as relevant laws and regulations, and public health system: (2) To improve the student's ability to apply their knowledge to real situations as they exist in the field.

Students are expected to take an active role in designing and preparing for a plan in advance of their fieldwork. (3) Students are expected to present his/her on-going research at the accepting institution, and discuss with staff members, researchers, and students on site to improve his/her research.

Feedback and assessment by the supervisor at the accepting institutions/organization is sought for the evaluation of student performance.

Upon return from the fieldwork, and without delay, students must submit a report describing his/her experience.

Financial Support

he program will support travel fee and accommodation.

Specific amount will be decided on a case by case basis.

アジア・フィールドワーク　―評価表―

Shiga University of Medical Science Leading Graduate Program
REDUCING THE BURDEN OF NON-COMMUNICABLE DISEASE IN THE ASIAN PACIFIC REGION

STUDENT EVALUATION FORM of FIELDWORK

This form is to be completed, printed and signed by the on-site fieldwork supervisor. Please give the completed form to the student as it must be turned in with their final portfolio assignment. If you are concerned about the privacy of the form you may put it in a sealed envelope.

EVALUATION OF (Student Name) _____

Supervisor's Name _____

Email _____

Please rate using the following key:

1=unsatisfactory; 2=needs improvement; 3=satisfactory; 4=above average; 5=outstanding

Performance of fieldwork (diligence and thoroughness)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Takes initiative (ability to research independently)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Grasp of subject (understanding of applicable standards and procedures)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Interpersonal relations/teamwork (effectiveness in working with participants and peers/supervisors)

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Problem solving/critical thinking skills

1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Dependability　Punctuality　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Attendance　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Communication skills　Verbal　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

Written　1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○

アジア・フィールドワーク　―評価表―

Student Evaluation Continued

Were the goals of the fieldwork met?

What skills do you think this student developed?

What were the student's primary strengths?

What recommendations would you suggest for his/her improvement?

What is your overall assessment of the student's performance?

Other Comments

Supervisor Signature_____ Date_____

外部講師一覧

平成26年度

名　前	所　属	日　程	科　目	講義タイトル
Sohel Reza Choudhury	National Heart Foundation Hospital & Research Institute	10/ 8	Fundamentals of Public Health	Current Epidemiology of Cardiovascular Diseases and Its Risk Factors in Bangladesh
小原　克博	同志社大学	10/20, 10/27	アジア文化・倫理の理解	文化と諸宗教、異文化間の生命倫理問題等
岡山　明	生活習慣病予防研究センター	11/18	公衆衛生学概論	NCD予防の健康教育・保健指導
奥田　奈賀子	人間総合科学大学	12/ 1	公衆衛生学概論	Nutrient Intakes in Japan
岡村　智教	慶應義塾大学	12/ 2	公衆衛生学概論	日本のNCD対策　歴史と展望
松井　健志	国立循環器病研究センター	12/15, 1 /26	アジア文化・倫理の理解	倫理研究概論、疫学研究における倫理 国際研究における倫理
名村　尚武	Morehouse School of Medicine	1 /16	循環器疾患・神経疾患臨床総論	Stroke Disparities Frontiers in Stroke Research
佐原　康之	WHO, Geneva	3 / 9	公衆衛生学総論	WHOのNCD対策

平成27年度

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
米本　孝二	久留米大学バイオ統計センター	4 /30	臨床試験概論	臨床試験におけるデータ管理
大久保　孝義	帝京大学	5 /11	臨床試験概論	高血圧領域における臨床試験の実際
村上　義孝	東邦大学	5 /15	循環器疾患・神経疾患疫学総論	EPOCH JAPAN研究の方法と知見
Dodge Hiroko	Oregon Health & Science University	6 / 2	Epidemiology of Cardiovascular & Neurological Diseases	Epidemiology of Dimentia (2)
八谷　寛	藤田保健衛生大学	6 / 5	糖尿病・腎臓病疫学総論	肥満のメタアナリシス
中村　保幸	龍谷大学	6 /11, 12	糖尿病・腎臓病疫学総論	Cardiovascular Epidemiology
Liu Longjian	Drexel University	6 /17	Epidemiology of Cardiovascular & Neurological Diseases Fundamentals of Clincal trials	Cardiovascular Health in Asian Americans Epidemiology of Metabolic Syndrome and Rena Disease
本多　智佳	大阪大学ツインリサーチセンター	6 /24	疫学研究概論	Twin Research: Another Approach for Risk Evaluation of NCD
M. Woodward	The George Institute for Global Health, Sydney University, Oxford University	7 /6, 7, 8, 9, 10, 13, 14	Epidemiology of Cardiovascular and Neurological Diseases Fundamentals of Clinical Trials	APCSC, Meta analysis, Risk Score, Splines, ADVANCE Clinical Trials
二宮　利治	九州大学大学院	7 / 9	循環器疾患・神経疾患疫学総論	久山町研究の方法と知見
牧本　清子	大阪大学大学院	7 /14	疫学研究概論	Nursing Epidemiology for NCD Prevention Management
横山　信治	中部大学	7 /24	糖尿病・腎臓病疫学総論	Cholesterol & Atherosclerosis

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
松下　邦洋	Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health	7/27	Epidemiology of Metabolic and Kidney Diseases	Prevalance and Risk Factors of CKD and Measures of CKD Effect of CKD on Cardiovascular Health
関川　暁	University of Pittsburgh Graduate School of Public Health	9/9,11,15,18	Epidemiology of Metabolic and Kidney Diseases	Descriptive Epidemiology of Diabetes and Coronary Heart Disease, etc.
L. J. Appel	Johns Hopkins University	10/6	Fundamentals of Public Health	Strength, Limitations and Implications of Controlled Feeding Studies; Results from DASH Update on the Effects of Sodium Intake on Blood Pressure and Health
Paul Elliott	Imperial College, London	10/13,14	Fundamentals of Epidemiologic method	Scientific Evidence and Causal Inference Multi-center Study and Standardization
Sohel Reza Choudhury	National Heart Foundation Hospital & Research Institute	11/6	Fundamentals of Public Health	Current CVD and Tobacco Control Situation in Our Population.
小原　克博	同志社大学	11/9	アジア文化・倫理の理解	文化と諸宗教、異文化間の生命倫理問題等
岡山　明	生活習慣病予防研究センター	11/10	公衆衛生学概論	Short History of Cardiovascular Risk Factors and Prevention of Lifestyle-Related Diseases by Health Education
松本　久子	京都大学大学院	11/26	がん呼吸器疾患臨床総論	Bronchial Asthma
奥田　奈賀子	人間総合科学大学	11/30	公衆衛生学概論	Nutrient Intakes in Japan, Asia and World
岡村　智教	慶應義塾大学	12/1	公衆衛生学概論	NCD Prevention Program in Japan - History & Future Direction
松井　健志	国立循環器病研究センター	12/15, 1/26	アジア文化・倫理の理解	倫理研究概論、疫学研究における倫理
Wang Peiyu	Beijing University	1/26	Fundamentals of Public Health	NCD Prevention and Management in China

平成28年度

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
寺原　朋裕	厚生労働省	4/22	保健医療行政論	日本の保健行政システム
西　信雄	国立健康・栄養研究所	5/11,18	社会疫学総論	社会疫学の解析手法他
大久保　孝義	帝京大学	5/30, 6/21	循環器疾患・神経疾患疫学総論 臨床試験概論	高血圧領域における臨床試験の実際他
村上　義孝	東邦大学	6/6	循環器疾患・神経疾患疫学総論	EPOCH JAPAN研究の方法と知見
Hiroko Dodge	University of Michigan	4/28	Epidemiology of Cardio-vascular and Neurological Diseases	Epidemiology of Dimentia
有馬　久富	福岡大学	4/22, 5/19, 6/30, 7/14	臨床試験概論 循環器疾患・神経疾患疫学総論	臨床試験概論 脳卒中の疫学
八谷　寛	藤田保健衛生大学	6/28	糖尿病・腎臓病疫学総論	肥満のメタアナリシス
中村　保幸	龍谷大学	6/7,14	糖尿病・腎臓病疫学総論	Cardiovascular Epidemiology
仲川　孝彦	奈良県立医科大学	5/12, 6/16	糖尿病・腎臓病臨床総論	生活習慣と慢性腎臓病
二宮　利治	九州大学大学院	5/24	循環器疾患・神経疾患疫学総論	久山町研究の方法と知見

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
本多　智佳	大阪大学大学院	5 /10	疫学研究概論	Twin Research: Another Approach for Risk Evaluation of NCD
川畑　摩紀枝		5 /25	保健医療行政論	Community Health Assessment
牧本　清子	大阪大学大学院	5 /17	疫学研究概論	Nursing Epidemiology for NCD Prevention Management
横山　信治	中部大学	5 /20	糖尿病・腎臓病疫学総論	Cholesterol & Atherosclerosis
松下　邦洋	Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health	6 /13	Epidemiology of Metabolic and Kidney Diseases	Prevalance and Risk Factors of CKD and Measures of CKD Effect of CKD on Cardiovascular Health
関川　暁	University of Pittsburgh Graduate School of Public Health	5 /12, 19	Epidemiology of Metabolic and Kidney Diseases	Descriptive Epidemiology of Diabetes and Coronary Heart Disease, etc.
貝瀬　俊彦	GlaxoSmithKline K.K.	7 / 7	臨床試験概論	創薬・育薬への疫学研究の活用
小原　克博	同志社大学	11/ 7 , 14	アジア文化・倫理の理解	文化と諸宗教、異文化間の生命倫理問題等
岡山　明	生活習慣病予防研究センター	11/ 8	公衆衛生学概論	NCD予防の健康教育・保健指導
奥田　奈賀子	人間総合科学大学	12/20	公衆衛生学概論	Nutrient Intakes in Japan
岡村　智教	慶應義塾大学	11/ 1	公衆衛生学概論	日本のNCD対策　歴史と展望
松井　健志	国立循環器病研究センター	12/19, 1 /16	アジア文化・倫理の理解	倫理研究概論、疫学研究における倫理 国際研究における倫理
Sohel Reza Choudhury	National Heart Foundation Hospital & Research Institute	1 /24	保健医療行政論社会疫学総論	アジアにおける保健医療行政 アジアの社会疫学研究の知見
Wang Peiyu	Beijing University	1 /19	保健医療行政論社会疫学総論	アジアにおける保健医療行政 アジアの社会疫学研究の知見
尾島　俊之	浜松医科大学	1 /18	社会疫学総論	ソーシャルキャピタルと災害
野崎慎仁郎	WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）上級顧問官（渉外・連携担当）	12/ 7	公衆衛生学概論	WHOのNCD対策
中嶋　宏	オムロン株式会社	1 /18	医療技術開発と海外技術移転	Digital Health Care- Data Intelligence
岩堀　敏之	オムロンヘルスケア	1 /18	医療技術開発と海外技術移転	Bridging innovation & Public health care for NCD Prevention
Craig Anderson	The George Institute for Global Health, China	3 /21	公衆衛生学概論	Clinical Trials in China
Dodge H Hiroko	University of Michigan	3 /23	特別セミナー	The ORCATECH Platform and Beyond

平成29年度

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
大久保　孝義	帝京大学	4 /27, 5 /22	循環器疾患・神経疾患疫学総論 臨床試験概論	高血圧領域における臨床試験の実際他
有馬　久富	福岡大学	4 /27, 7 / 7 , 18, 12/ 5	臨床試験概論 循環器疾患・神経疾患疫学総論	臨床試験概論 脳卒中の疫学
矢野　裕一朗	ミシシッピー大学	5 /16	循環器疾患・神経疾患疫学総論	Hypertension Research Topic in the US

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
牧本　清子	甲南大学	5 /23	疫学研究概論	Nursing Epidemiology for NCD Prevention Management
宇津　貴	日生病院	6 / 1	糖尿病・腎臓病臨床総論	高血圧と慢性腎臓病
本多　智佳	大阪大学大学院	6 / 6	疫学研究概論	Twin Research: Another Approach for Risk Evaluation of NCD
仲川　孝彦	奈良県立医科大学	6 / 8	糖尿病・腎臓病臨床総論	生活習慣と慢性腎臓病
川畑　摩紀枝	関西国際大学	6 / 9	保健医療行政論	地域の健康ニーズアセスメント　他
村上　義孝	東邦大学	6 /13	循環器疾患・神経疾患疫学総論	EPOCH JAPAN研究の方法と知見
西　信雄	国立健康・栄養研究所	6 /14,21	社会疫学総論	社会疫学の解析手法他
松下　邦洋	Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health	7 / 5	循環器疾患・神経疾患疫学総論	心不全の疫学
貝瀬　俊彦	GlaxoSmithKline K.K.	7 /19	臨床試験概論	創薬・育薬への疫学研究の活用
二宮　利治	九州大学大学院	7 /21	循環器疾患・神経疾患疫学総論	久山町研究の方法と知見
奥田　奈賀子	人間総合科学大学	10/10	公衆衛生学概論	Nutrient Intakes in Japan
尾島　俊之	浜松医科大学	10/25	社会疫学総論	ソーシャルキャピタルと災害
小原　克博	同志社大学	11/ 6 ,13	アジア文化・倫理の理解	文化と諸宗教、異文化間の生命倫理問題等
岡山　明	生活習慣病予防研究センター	11/14	公衆衛生学概論	NCD予防の健康教育・保健指導
Sudha Seshadri	Boston University, School of Medicine	11/16	公衆衛生学概論	認知症と脳卒中への考察―フラミンガムスタディーより
松井　健志	国立循環器病研究センター	12/ 4 , 1 /22	アジア文化・倫理の理解	倫理研究概論、疫学研究における倫理 国際研究における倫理
野崎慎仁郎	WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）上級顧問官（渉外・連携担当）	12/19	公衆衛生学概論	WHOのNCD対策
佐原　康之	厚生労働省	1 / 9	保健医療行政論	日本の保健行政システム
岡村　智教	慶應義塾大学	1 /11	公衆衛生学概論	日本のNCD対策　歴史と展望
Sohel Reza Choudhury	National Heart Foundation Hospital & Research Institute	1 /31	公衆衛生学概論	Current CVD epidemilogy of Bangladesh
Wang Peiyu	Beijing University	2 / 5	保健医療行政論 社会疫学総論	アジアにおける保健医療行政 アジアの社会疫学研究の知見
Kim Hyeong Chang	Yonsei Univ. College of Medicine	3 / 6	循環器疾患・神経疾患疫学総論	Interdisciplinary CVD Prevention studies in Korea

平成30年度

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
有馬　久富	福岡大学	4 /13, 5 /18, 7 /10	臨床試験概論 循環器疾患・神経疾患疫学総論	臨床試験概論 脳卒中の疫学
Queenie Chan	Imperial College, London	4 /17	疫学研究概論	Nutritional epidemiology and metabolome wide association study
大野　聖子	国立循環器病研究センター	4 /26, 5 /24	循環器疾患・神経疾患疫学総論	循環器病領域のゲノム疫学

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
村上　義孝	東邦大学	5 / 8	循環器疾患・神経疾患疫学総論	EPOCH JAPAN研究の方法と知見
西　信雄	国立健康・栄養研究所	5 / 9 , 5 /16	社会疫学総論	社会疫学の解析手法他
安部　哲也	立教大学	5 /14	発表技法と熟議	World Class Leadership
牧本　清子	大阪大学大学院	5 /17	疫学研究概論	Nursing Epidemiology for NCD Prevention Management
渡邊　環	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	5 /17	臨床試験概論	PMDA・倫理指針の実際
川畑　摩紀枝	関西国際大学	5 /18	保健医療行政論	Community Health Assessment
大久保　孝義	帝京大学	5 /21 , 7 /24	循環器疾患・神経疾患疫学総論 臨床試験概論	高血圧領域における臨床試験の実際他
横山　信治	中部大学	5 /22 , 5 /29	糖尿病・腎臓病疫学総論	Cholesterol & Atherosclerosis
本多　智佳	大阪大学大学院	5 /24	疫学研究概論	Twin Research: Another Approach for Risk Evaluation of NCD
中村　保幸	龍谷大学	6 / 7 , 6 /14	糖尿病・腎臓病疫学総論	Cardiovascular Epidemiology
仲川　孝彦	奈良県立医科大学	6 /19	糖尿病・腎臓病臨床総論	生活習慣と慢性腎臓病
二宮　利治	九州大学大学院	6 /22	循環器疾患・神経疾患疫学総論	久山町研究の方法と知見
尾島　俊之	浜松医科大学	11/13	社会疫学総論	ソーシャルキャピタルと災害
荒西　利彦	イーライリリー 株式会社	10/19	臨床試験概論	医療経済概論
貝瀬　俊彦	GlaxoSmithKline K.K.	7 /18	臨床試験概論	創薬・育薬への疫学研究の活用
八谷　寛	藤田保健衛生大学	7 /23	糖尿病・腎臓病疫学総論	肥満のメタアナリシス
関川　暁 Internet Class	University of Pittsburgh Graduate School of Public Health	10/10, 10/17	糖尿病・腎臓病疫学総論	Descriptive Epidemiology of Diabetes and Coronary Heart Disease, etc.
後期				
浅尾　啓子	Amgen Astellas Biopharma	10/ 2	臨床試験概論	Using Real-World Data and Epidemiology to Support Drug Development
Miia Kivipelto	Karolinska Institute	11/ 1	公開講義	Multidomain interventions to prevent cognitive impairment and dementia: from FINGER to World-Wide FINGERS
奥田　奈賀子	人間総合科学大学	11/ 1	公衆衛生学概論	Nutrient Intakes in Japan
船山　徹	京都大学	11/ 5 , 11/12	アジア文化・倫理の理解	文化と諸宗教、異文化間の生命倫理問題等
岡山　明	生活習慣病予防研究センター	11/ 6	公衆衛生学概論	NCD予防の健康教育・保健指導
岡村　智教	慶應義塾大学	11/20	公衆衛生学概論	日本のNCD対策　歴史と展望
水谷　真由美	三重大学	11/29	保健医療行政論	Community health system for preventing hypertension and promoting health in Indonesia
松井　健志	国立循環器病研究センター	12/16, 1 /21	アジア文化・倫理の理解	倫理研究概論、疫学研究における倫理 国際研究における倫理

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
魚住　龍史	京都大学大学院	12/11	医療統計学２	生存時間解析入門、サンプルサイズ設計 Introduction to survival analysis, Sample size calculation
Kim Hyeong Chang	Yonsei Univ. College of Medicine	12/ 3	公衆衛生学概論	Socio-economic difference in hyper-tension and diabetes management
赤澤　俊一	元WHO(世界保健機関) 健康開発総合研究センター ITManager/渉外官	12/14	大学院特別講義	Career path with international organizations - an example with the World Health Organization
矢野　裕一朗	Duke University, Assistant Professor	2 / 4	公衆衛生学概論	Hypertension Research Topic in the U.S.

平成31年度令和元年度

名前	所属	日程	科目	講義タイトル
有馬　久富	福岡大学	4 /26, 7 /12	臨床試験概論	臨床試験概論
Queenie Chan	Imperial College, London	4 /15	疫学研究概論	Nutritional epidemiology and metabolome wide association study
藤吉　朗	和歌山県立医科大学	4 /18, 5 /13, 5 /14, 5 /27, 5 /28 5 /30 (IT授業)	疫学研究概論	疫学研究概論
西　信雄	国立健康・栄養研究所	5 /22, 5 /29	社会疫学総論	社会疫学の解析手法他
渡邊　環	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	5 /16	臨床試験概論	PMDA・倫理指針の実際
川畑　摩紀枝	関西国際大学	5 /17	保健医療行政論	Community Health Assessment
大久保　孝義	帝京大学	7 / 9	臨床試験概論	高血圧領域における臨床試験の実際他
松本　久子	京都大学	7 /18	がん呼吸器疾患臨床総論	
水谷　真由美	三重大学	7 /26	保健医療行政論	Community health system for preventing hypertension and promoting health in Indonesia
貝瀬　俊彦	GlaxoSmithKline K.K.	7 /24	臨床試験概論	創薬・育薬への疫学研究の活用
水澤　純基	国立がん研究センター	7 /11	生物統計学概論	生存時間解析入門、サンプルサイズ設計 Introduction to survival analysis, Sample size calculation

後期

尾島　俊之	浜松医科大学	11/13	社会疫学総論	ソーシャルキャピタルと災害
奥田　奈賀子	人間総合科学大学	11/28	公衆衛生学概論	Nutrient Intakes in Japan
岡山　明	生活習慣病予防研究センター	12/ 3	公衆衛生学概論	NCD予防の健康教育・保健指導
那須　英勝	龍谷大学	10/28 11/11	アジア文化・倫理の理解	東アジアの宗教と生命倫理
松井　健志	国立がん研究センター	11/29	アジア文化・倫理の理解	倫理研究概論、疫学研究における倫理 国際研究における倫理

研究基礎力試験（QE：Qualifying Examination）

1．試験方法

⑴ 筆記試験

1．必修の２クラスタ（公衆衛生クラスタ及び医療統計クラスタ）について実施（計180分　休憩なし）
2．計算機のみ持ち込み可、計算機能付き携帯電話、PC等は不可、鉛筆、消しゴムは必携
3．出題方式は、選択式及び記述式とする
4．配点は300点満点とし、合格基準は60％以上の得点を目安とする
5．問題作成に際しては、教員が出題内容の相互確認を行い、必要に応じてフィードバックを受け修正
6．採点については、出題者がおこなう

⑵ 口頭試問

1．現在実施中の研究内容及び今後の研究計画について、所定の書式を期日までに事務局にファイル送付ならびに７部コピー（５部審査用、２部事務局用）を提出。
2．上記内容についてのプレゼンテーション20分、質疑応答40分程度（非公開）
当日審査用ハンドアウトをプレゼンテーション当日に５部持参すること
3．配点は300点満点とし、合格基準は60％以上の得点を目安とする（審査項目、配点及び評価表は別途作成）
4．審査員は、受験者１名に対し５名とする

2．合否判定

筆記試験及び口頭試問の得点及びその他勘案すべき要素をもとに、審査員の合議において総合的に合否判定する。

3．不合格となった学生の取り扱い

⑴ 在籍について

次のいずれかを選択させる。

(a) 引き続きリーディングプログラムに在籍し、半年後のQEを再受験する。再受験までの期間は、不足すると判定された部分について講義を聴講する等、再学習に努める（この場合、学則に定める博士課程の在学年限（原則８年、社会人入学者は12年）のうち、残期間に注意すること）。 QE合格後に３年次の単位取得登録を進める。

(b) 所定の手続きを経て他のコースに所属変更のうえ、第３学年へ編入する（この場合、変更

後のコースにおける所定科目を履修のうえ、修了要件単位数を満たす必要があることに注意すること）

(2) 奨励金について

・上記１－ａの場合、QE再受験までの奨励金支給は停止し、QE合格後、その支給を再開する

・上記１－ｂの場合、奨励金支給は停止する

(3) 授業料について

・上記１－ａの場合、QE再受験までの期間は通常の所定額の授業料を納付させる

・指定校推薦入学者であっても、上記１－ａの場合、QE再受験までの期間は通常の所定額の授業料を納付させる

・上記１－ｂの場合、通常の所定額の授業料を納付させる

４．実施日時

平成28年度	筆記試験	口頭試問
前　期	平成28年７月１日	平成28年７月５日、８日、13日
後　期	平成29年１月20日 再試験：３月27日	平成28年12月20日、 平成29年１月10日、12日、13日、16日

平成29年度	筆記試験	口頭試問
前　期	平成29年１月20日	平成29年７月11日
後　期	平成30年１月12日	平成30年１月15日、16日、17日

平成30年度	筆記試験	口頭試問
前　期	平成30年７月17日	平成30年７月26日
後　期	平成31年１月９日	平成31年１月10日、11日

令和元年度	筆記試験	口頭試問
前　期	令和元年７月１日	令和元年７月８日
後　期	令和２年１月８日	令和２年１月９日、15日

学位予備審査

大学院医学系研究科博士課程教育リーディングプログラムの在籍者は、学位論文審査申請に際し、予備審査での承認を得るものとする。

1．審査対象者

審査対象者は、リーディングプログラムの第４学年に在籍または１年以内に単位修得退学した者で、発表論文が学術誌に　採択された者もしくは本審査申請期限までに論文の学術誌への採択が見込まれる者とする。

2．実施方法

⑴ 提出書類（原則英語とする。）

１．採択済、および投稿中の論文リスト

２．採択済、および投稿中の全論文

３．全論文の要約

４．「アジア・フィールドワーク」及び「海外研究機関短期研修」又は「健康関連産業研修」の報告書

※ 提出書類は、リーディングプログラム関係者に公開する。

⑵ 審査会

１．審査会はセミクローズで行い、発表20分、質疑応答40分とする。発表と質疑応答は英語で行う。

２．審査員は、受験者１名に対し５名（講師相当以上）とし、学外者を１人以上含める。

※ 主・副指導教員は傍聴者として出席し、判定には関与しない。

※ 必要時にはテレビ会議システムを利用する。

※ 学生を含むリーディングプログラム関係者は出席可能とする。

3．合否判定

100点満点で評価し、60点以上の審査員が半数以上の場合、予備審査合格とする。

不合格の場合、初回の予備審査での指摘点を改訂後、追試を行うことがある。

4．不合格となった学生の取り扱い

⑴ 予備審査に不合格の者は、学位論文審査申請を行うことができない。

⑵ 予備審査に不合格の者は、留年または単位修得退学を選択し、一年以内の申請に向けて準備を進める。なお留年を選択した場合には、この期間の奨励金は中止し、学費免除者については学費負担が発生する。

5. その他

(1) 本審査申請期限までに採択が見込まれる論文で予備審査を受け、審査員による合格基準を満たした場合、判定保留とし、論文採択の通知をもって合格とする。本審査申請期限までに採択通知がない場合、半年後の本審査申請とし、 その際の予備審査は必要としない。

(2) リーディングプログラム在籍者は、留年・単位修得退学後の学位審査再申請時にも、予備審査での再審査を必要とする。

4. 実施日時

平成30年度

前　期	平成30年５月21日
後　期	平成30年11月28日

令和元年度

前　期	令和元年５月13日
後　期	令和元年11月12日、14日、12月４日

外部評価委員会

1. 外部評価委員名簿

（敬称略）

氏　名	所　属	職　名	備　考
佐藤　敏信	久留米大学	特命教授	元厚生労働省 健康局長
中山　健夫	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻	教授	
吉田　　博	ニプロ株式会社企画開発技術事業部 総合研究所第三研究開発部	取締役　部長	
IL SUH	Department of Preventive Medicine, Yonsei University College of Medicine （延世大学校医科大学予防医学教室）	Professor （教授）	国外有識者 （大韓民国）

※ 任期は、各委員とも令和２年３月31日まで。

2. 実施日時

（国内）

第１回　平成28年６月10日（金）

第２回　平成29年９月５日（火）

第３回　平成30年10月30日（火）

（国外）

第１回　平成28年９月２日（金）

第２回　平成29年10月25日（水）

第３回　平成30年11月27日（火）

3．評価の集計

平成28年度　博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」外部評価委員会　評価シート集計

【国内委員】平成28年６月10日（金）実施　　【国外委員】平成28年９月２日（金）実施

【評価基準】A+：特に優れている　　A：優れている　　B：普通　　C：努力が必要　　D：特に努力が必要
【ＧＰＡ】（A+×５＋A×４＋B×３＋C×２＋D×１）／４

個別項目評価		評価（n=4）						コメント
		A+	A	B	C	D	GPA	
1 プログラムの実施体制について								
1-1	本プログラムの運営組織は、成果目標に照らし合わせて適切なものか。	2	2	0	0	0	4.5	・国内外、各領域の専門家による体制が非常に充実していると感じます。
1-2	本プログラムの運営組織は、社会のニーズを適切に反映しているか。	2	2	0	0	0	4.5	・脳卒中の延長線としての介護問題について、３次予防的な領域の専門家の参加があればベターと思われます（看護系などすでに参加されているかと存じます）。 ・自国に戻った時のステータスの保証に役立つブランド or 資格の提供検討要。
1-3	国際的及び国内的な連携体制は、確立されているか。	2	2	0	0	0	4.5	・バリエーション、レベルとも十分な教育スタッフが確保されている。 ・模範的な体制を構築されていると思います。 ・アジアNo.1を目指して下さい。
2 学生の受け入れについて								
2-1	本プログラムのアドミッションポリシーが明確にされ、公表されているか。	1	2	1	0	0	4.0	・明示されていると思います。
2-2	アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが、適切に行われているか。	0	3	1	0	0	3.8	・定員に対してはまだ十分ではないので、その点引き続きのご努力を期待致します。
2-3	アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが適切に行われているかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入試方法の改善に役立てているか。	0	3	1	0	0	3.8	
2-4	学生を獲得するために、積極的に広報活動を行っているか。	0	3	1	0	0	3.8	・学生獲得は生命線。広報活動は知恵を絞って工夫要。
3 教育方法及び内容について								
3-1	本プログラムのカリキュラムは、適切なものか。	3	1	0	0	0	4.8	・基本の修得、実践、応用まで内容豊富でバランスのとれたカリキュラムと思います。
3-2	教育研究環境は、適切なものか。	2	2	0	0	0	4.5	・学生さん達が実際にどのように学ばれているか、interactionがあるかも知りたいと思いました。
3-3	学生への教育支援体制は、適切なものか。	2	2	0	0	0	4.5	・メンタリングの体制はあるでしょうか？
4 教育の質について								
4-1	学位授与の基準は、適切なものか。	1	2	1	0	0	4.0	・これから授与されるので、それまでにさらに明確で現実的な基準をお示し頂ければと思います。
4-2	教育の質の向上や改善のための取り組み（授業評価及びその結果分析等）は、適切なものか。	2	2	0	0	0	4.5	
4-3	Qualifying Examinationの内容は、適切なものか。（※平成28年度外部評価の対象外とする）	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)		（・これからの課題ですので若干traial and errorも必要と思われます。）
4-4	学生の研究成果や進捗状況は、順調か。	0	3	1	0	0	3.8	
5 学生の生活支援及び経済支援について								
5-1	学生への生活支援体制は、適切なものか。	4	0	0	0	0	5.0	
5-2	学生への経済支援体制は、適切なものか。	3	1	0	0	0	4.8	・学生の満足度調査を検討し、見直すべき点をみつける。
6 その他特記事項等								・評価を行う上で、①学生からの意見聴取、②サイトビジット（実際の研究の場の視察）が盛り込まれるとなおよい。①+②で１時間もかからないと思う。

総合評価	評価						コメント
	A+	A	B	C	D	GPA	
	1	3	0	0	0	4.3	・入学からカリキュラム、進級の仕組みまで十分に検討された上での精緻なプログラムとなっている。経済的な支援についても十分な対応がなされている。 ・十分以上に素晴しいプログラムと存じます。今後の更なる発展への期待を込めて、今回はAとさせて頂きます。先生方のお取り組みのご成功をお祈りしています。 ・優秀な学生をできるだけ多く集める工夫。将来的に独立採算できるように学生数、学費等の検討（sustainableなprojectにするためには経済的自立は必要です）。 ・NCDs prevention and control is a global agenda. Especially in Asian-Pacific area, well trained professionals are highly needed in order to overcome NCDs. Shiga University of Medical Science, Leading Graduate Program is an unique and excellent initiative for the training of qualified professionals on NCDs. I hope this program will be maintained for long time in order to contribute for prevention and control of NCDs in Asian-Pacific area.

※評価シートの集計結果の公表に際しては、公正性の観点から、外部評価委員の氏名は明記しない。

平成29年度　博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」外部評価委員会　評価シート集計

【国内委員】平成29年９月５日（木）実施　　【国外委員】平成29年10月25日（水）実施

【評価基準】A+：特に優れている　　A：優れている　　B：普通　　C：努力が必要　　D：特に努力が必要
【GPA】（A+×５＋A×４＋B×３＋C×２＋D×１）／３

個別項目評価		評価（n=4）						コメント
		A+	A	B	C	D	GPA	
1 プログラムの実施体制について								
1-1	本プログラムの運営組織は、成果目標に照らし合わせて適切なものか。	0	4	0	0	0	4.0	
1-2	本プログラムの運営組織は、社会のニーズを適切に反映しているか。	2	2	0	0	0	4.5	・これからデータ、数学、論理は大切になり、本プログラムはそれを体言したものと考えられる。
1-3	国際的及び国内的な連携体制は、確立されているか。	2	2	0	0	0	4.5	
2 学生の受け入れについて								
2-1	本プログラムのアドミッションポリシーが明確にされ、公表されているか。	1	2	1	0	0	4.0	・学生をもっと集めるべき。定員は満たした方がよい。たとえポリシーを改変しても･･･
2-2	アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが、適切に行われているか。	0	4	0	0	0	4.0	
2-3	アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが適切に行われているかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入試方法の改善に役立てているか。	0	3	1	0	0	3.8	
2-4	学生を獲得するために、積極的に広報活動を行っているか。	0	4	0	0	0	4.0	
3 教育方法及び内容について								
3-1	本プログラムのカリキュラムは、適切なものか。	3	1	0	0	0	4.8	・すべて英語でコースワークが提供されており、満足度も高いようでした。 ・データベースの構築や活用をしっかり教育しており適切であると考えられる。
3-2	教育研究環境は、適切なものか。	1	2	0	1	0	3.8	・データそのものも含めて、満足できるものと言えるでしょう。「総合評価」にもその旨書きました。
3-3	学生への教育支援体制は、適切なものか。	1	2	0	0	0	3.3	・それぞれの志望、目的にあった講座の紹介が行われているとの説明がありました。
4 教育の質について								
4-1	学位授与の基準は、適切なものか。	2	2	0	0	0	4.5	・今後の予備審査の実質的な運用に期待しています。
4-2	教育の質の向上や改善のための取り組み（授業評価及びその結果分析等）は、適切なものか。	0	4	0	0	0	4.0	
4-3	Qualifying Examinationの内容は、適切なものか。	1	3	0	0	0	4.3	・個々の学生バックグラウンドに応じたＱＥの評価が行われているとの説明がありました。
4-4	学生の研究成果や進捗状況は、順調か。	0	4	0	0	0	4.0	・個々の状況に応じて、弾力的運用も検討してみると良いと思う。
5 学生の生活支援及び経済支援について								
5-1	学生への生活支援体制は、適切なものか。	1	3	0	0	0	4.3	
5-2	学生への経済支援体制は、適切なものか。	1	1	2	0	0	3.8	・一部の学生に奨励金のみによる生活がやや厳しい旨の声が聞かれました。 ・個々の学生に不満はあるようですが、それなりの額の支援はなされていると思います。
6 その他特記事項等								

総合評価	評価						コメント
	A+	A	B	C	D	GPA	
	1	3	0	0	0	4.3	・講座自体が膨大な疫学フィールドとデータを有しており、その蓄積に立脚した緻密で適格な指導が行われているという印象です。 ・貴大学の疫学研究の実績と全学のご支援でオンリーワン型リーディング大学院として素晴らしいプログラムを運営されていると存知ます。リーディングプログラム終了後、良い形で大学内での組織化が進まれるように祈念しています。 ・総じて優れたプログラムであり、上手に運用している。すばらしい花を咲かせ、実を収穫するために、卒後の進路をきちんとサポートしいただくことを切に希望する。 ・When I reviewed last year's activities of Shiga University of Medical Science Leading Graduate Program for Reducing the Burden of NCD in the Asia Pacific Region, I found that the program has been operated quite successfully. However, I believe we can improve the program even further if we can find away to reduce the burden of faculty superviaing the PhD students. More details are described at Educational content and methods.

※評価シートの集計結果の公表に際しては、公正性の観点から、外部評価委員の氏名は明記しない。

平成30年度　博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」外部評価委員会　評価シート集計

【国内委員】平成30年10月30日（火）実施　　【国外委員】平成30年11月27日（火）実施

【評価基準】A+：特に優れている　　A：優れている　　B：普通　　C：努力が必要　　D：特に努力が必要
【評価計算式】（A+×５＋A×４＋B×３＋C×２＋D×１）／4（評価者数）

個別項目評価		評価 A+	A	B	C	D	スコア	コメント
1 プログラムの実施体制について								
1-1	本プログラムの運営組織は、成果目標に照らし合わせて適切なものか。		4				4.0	・綿密に計画されている。 ・成果目標に応じた適切な組織になっているが、mentor数、特に欠員はすぐ補充する必要あり。
1-2	本プログラムの運営組織は、社会のニーズを適切に反映しているか。		4				4.0	・最近のAIやビッグデータ等の話題にも十分対応できるような将来性を持っている。 ・プログラム修了者の進路はいかがでしょうか。
1-3	国際的及び国内的な連携体制は、確立されているか。	2	2				4.5	・フィールドワークや短期研修など多彩なプログラムが用意されている。
2 学生の受け入れについて								
2-1	本プログラムのアドミッションポリシーが明確にされ、公表されているか。	2	2				4.5	
2-2	アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが、適切に行われているか。	1	3				4.3	・入試選抜の状況をもう少しお聞きできればと思いました。
2-3	アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが適切に行われているかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入試方法の改善に役立てているか。		3	1			3.8	
2-4	学生を獲得するために、積極的に広報活動を行っているか。		4				4.0	・留学生がなぜ本プログラムを選んだか、その理由も知りたいと思いました。
3 教育方法及び内容について								
3-1	本プログラムのカリキュラムは、適切なものか。		4				4.0	
3-2	教育研究環境は、適切なものか。	1	1	1	1		3.5	・多様なヘルスデータの利用が可能な環境は素晴しいです。 ・適切なmentor数の確保は必要と思う。 ・In 2017's evaluation I described that burden of each supervisor is too heavy to handle because each supervisor has to ake care of 4 to 8 phD students. This year the burden became heavier than last year.As you can see the following table,each supervisor has to take care of 9 to 16 phD students. This semms to me to be extremely heavy for one supervisor to handle. In order to make the program effective,finding a way to reduce the burden of faculties is highly recommended.
3-3	学生への教育支援体制は、適切なものか。		2	2			3.5	
4 教育の質について								
4-1	学位授与の基準は、適切なものか。	1	3				4.3	・予備審査も厳しくされており、高い質の担保に役立っているものと思います。
4-2	教育の質の向上や改善のための取り組み（授業評価及びその結果分析等）は、適切なものか。		3	1			3.8	
4-3	Qualifying Examinationの内容は、適切なものか。	1	3				4.3	
4-4	学生の研究成果や進捗状況は、順調か。		4				4.0	
5 学生の生活支援及び経済支援について								
5-1	学生への生活支援体制は、適切なものか。	1		2	1		3.3	・住居の提供の条件をもっと良くできないか？個別住居の提供など。
5-2	学生への経済支援体制は、適切なものか。	1		2	1		3.3	・奨励金の減額は切実な問題。せめて減税、免税等の措置は検討すべき。 ・更なる何らかの工夫が必要ではないか。
6 その他特記事項等								・全国にこのプログラムの奨励金に準じたものがあるなら一致協力して減税・免税等の要望を申し入れるべき。まずは文部省の担当部局の税制要望に盛り込んでもらうといいのではないか。 ・文科省の予算減が学生生活にとって影響が多いようです。大学も苦労されているところと拝察します。 ・日本の印象を良くするためにも、経済的支援は大切。

Name of supervisor	Number of students	
	Main supervisor	Secondary supervisor
Pr of .Miura	9	7
Pr of.Kadota	4	1
Pr of .Fujiyoshi	1	8

	評価						コメント
	A+	A	B	C	D	GPA	
総合評価	1	3				4.3	・個別にA＋の評価は付けていないが、コースの趣旨、意欲、意義、体制を総合的に勘案すると十分A+に値するものである。単なる「教育・研修」にとどまらず、国際的な相互理解にも資すると思われる。「疫学」というとやや古めかしい響きも感じられるが最近のAIやビッグデータ等の流れにも十分対応できる将来性のあるプログラムであると信ずる。 ・滋賀医科大学における疫学研究の実績という強みを最大限に活かされたオンリーワン型のリーディング大学院のモデルになる取り組みと思います。本プログラムの貴学における継続性、発展性にも大いに期待しております。 ・プログラムは良くできており、将来のリーダーを育成するものになっていると思う。将来のリーダーに日本での印象を良くするためにも、経済的支援をご検討いただきたい。 ・When I reviewed this year's activities of Shiga University of Medical Science Leading Graduate Program for Reducing the Burden of NCD in the Asia Pacific Region I found that the program has been operated quite well. However,burden of faculties supervising the phD students has been increased a lot. In order to make the program effective,finding a way to reduce the burden of faculties is highly recommended. More details are described at Educational content and method.

※評価シートの集計結果の公表に際しては、公正性の観点から、外部評価委員の氏名は明記しない。

プログラムオフィサー（PO）の現地訪問

各採択プログラムに対する日常的な進捗状況の把握、相談、助言等の対応を行うためにプログラムオフィサーが置かれています。プログラムオフィサーは、企業、国際機関、外国の大学等、海外での勤務経験を有する方の中から独立行政法人日本学術振興会理事長が任命しています。

PO：那須　民江　（中部大学　特任教授）

実施日時

平成26年度：平成27年２月16日（月）　実施
平成27年度：平成27年12月７日（月）　実施
平成28年度：平成28年５月16日（月）　実施
平成29年度：平成30年１月16日（火）　実施
平成30年度：平成30年10月30日（火）　実施
令和元年度：令和元年５月13日（月）　実施

POによるフォローアップでの課題・意見等

○政府機関で医系技官として働ける医学生の育成強化

平成26年度、平成28年度、平成29年度と厚生労働省の医系技官を招いて、すべて英語による講義を実施し、学生のキャリアパスの多様化をはかりました。

○リーダー人材の育成強化

政府機関や企業でリーダーとなる人材の育成を目指し、インペリアル・カレッジ・ロンドンのQueenie Chan氏、カロリンスカ研究所のMiia Kivipelto、Yonsei大学のHyeon Chang Kim氏など疫学の分野で世界を牽引するリーダーによる特別講義やディスカッションを実施しました。

また、元WHOの赤澤俊一氏によるリーダーシップ特別講義、立教大学/EQパートナーズ㈱の安倍哲也氏によるセミナーを実施し、リーダーシップのかたちはひとつではなく、自分の特性に合ったリーダーシップとは何かを学生が考えるきっかけになりました。

安倍哲也氏のセミナーには教員も参加し、グローバルリーダー育成の意識を共有しました。

立教大学 /EQ パートナーズ（株）の安倍哲也氏によるセミナー

発展型アジアNCD超克SUMS留学生プログラム

リーディングプログラムのカリキュラムと従来の先端医学研究者コースのカリキュラムを融合することにより、疫学のみならず医学全般にわたって優秀な留学生を確保する「発展型アジアNCD超克SUMS留学生プログラム」が国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムに採択されました。

これまでこのプログラムで８名の国費外国人留学生を受け入れており、令和２年度も４名の国費外国人留学生を受け入れる予定です。

日本人学生と切磋琢磨することで、「アジアを変えるリーダー」や「アジアNCD対策を牽引するグローバルリーダー」となる人材の創出を目的としています。

学生への支援状況

○国際交流会館への入居

国際交流会館（留学生用学生寮）の居住条件を見直し、入居者数をできるだけ多く確保できるようにしました。

○奨励金支給制度について

本プログラムでは、プログラム所属学生が経済的な負担を軽減され、より学業および研究に専念できるよう、月額15万円を基準とした奨励金制度を設けています。

年ごとに審査のうえ、支給の可否や支給額を決定しています。

奨励金の支給状況

	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年
平成26年度	３名			
平成27年度	５名	３名		
平成28年度	４名	５名	３名	
平成29年度	６名	５名	４名	３名
平成30年度	５名	６名	４名	６名
令和元年度		４名	６名	４名

○助成金等の獲得状況

Application Date	Name	Enrollment	Grant Foundation	Grant Category	Amount
May, 2018	永田　英貴	17S	滋賀医学国際協力会	医学系研究者海外渡航助成	150,000
May, 2018	和氣　宗	17S	滋賀医学国際協力会	医学系研究者海外渡航助成	150,000
May, 2018	Pham Huy Kien Tai	15S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	150,000
May, 2018	Siddique Ali Tanweer	16S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	150,000
May, 2018	Ali Haidar Syaifullah	16A	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	300,000
May, 2018	Ebtehal Salman	17S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	150,000
May, 2018	Nahar Nurun	17S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	300,000
Jun, 2018	Siddique Ali Tanweer	16S	学長裁量経費	研究助成（若手萌芽研究）	500,000
Jun, 2019	Khan Kawser	17A	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	300,000
Jun, 2019	Vu Thien	17A	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	300,000
Jun, 2019	Moniruzzaman	17A	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	300,000
Jun, 2019	Andrea Michael Sihombing	18S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	300,000
Jun, 2019	Ganbaatar Namuun	18S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	150,000
Jun, 2019	Zhang Hexun	18S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	150,000
Jun, 2019	Zhu Ming	18S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	150,000
Jun, 2019	Tsevegjav Bayarbat	18S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	150,000
Jun, 2019	Byambajav Tserenlkham	18S	滋賀医学国際協力会	外国人留学生等修学助成	300,000
Jun, 2019	Andrea Michael Sihombing	18S	佐藤陽国際奨学財団	私費留学奨学生	月額 180,000 (2020 年 4 月～)
Sep, 2019	Tsevegjav Bayarbat	18S	上原記念生命科学財団	来日研究生助成金	月額 150,000 (2020 年 4 月～)

3

学生の活動状況

Student activities

Leading Graduate Program for Reducing the Burden of
Non-communicable Disease（NCD）in the Asian Pacific Region

学生の研究課題一覧

	入学年度	疫学研究	研究課題
1	2016.4	SESSA	The Association Between Coronary Artery Calcification and Subclinical Cerebrovascular Diseases in Men: An Observational Study
2		SESSA	Alcohol consumption and cognitive function in elderly Japanese men
3		Takashima Study	Cognitive function among Bangladeshi and Japanese elderly
4		Internship, WHO Kobe	Rapid urbanization in Bangladesh: A major challenge in achieving universal health coverage (UHC)
5		CRCT: Heiwado DATA	Association between prescription interval of antihypertensive agents and 3 years hyertension control: Japanese occupational cohort study
6		NIPPON DATA 80	Relationship of household salt intake level with long-term all-cause and cardiovascular disease mortality in Japan: NIPPON DATA80
7		NIPPON DATA 80 90	Is the effect of meat consumption on CVD mortality modified for chronic kidney disease?
8		INTERLIPID Study	Protein intake estimation for Japanese using urinary urea nitrogen
9		SESSA	Liver fat accumulation assessed by computed tomography is an independent risk factor for diabetes mellitus in a population-based study: SESSA (Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis)
10		INTERLIPID Study	Relationships of alcohol consumption with coronary risk factors and macro- and micro-nutrient intake in Japanese people: The INTERLIPID study
11	2016.10	OASIS Database	Sex differences of brain cortical convolutions in matched total intracranial volume (TIV) subjects
12		SESSA-2	Association of Smoking with the Brain Volume and White Matter Hyperintensities in Japanese Men
13	2017.4	SESSA-1 and 2	Relationship of four blood pressure indexes to subclinical cerebrovascular diseases assessed by brain MRI in general Japanese men
14		NIPPON DATA 90	Association between higher-level functional capacity and all cause, disease specific mortality
15			Dynamic changes of mitral annulus in patients with degenerative mitral regurgitation and chronic atrial fibrillation undergoing mitral valve reconstruction.
16			Detection of subclinical LV systolic dysfunction in patients of severe aortic stenosis with good left ventricular systolic function by 3D speckle Tracking echocardiography
17		Takashima Study	Waist Circumstance and Domain-Specific Cognitive Function among Non-demented Japanese Older Adults Stratified by Sex
18		National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups	Status of Anti-hypertensive Medications in Japan: Analysis Using National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan わが国における高血圧治療薬の使用実態：レセプト情報・特定健診等情報データベースを用いた分析

	入学年度	疫学研究	研究課題
19	2017.10	Takashima Study	Association of the Diurnal Temperature Range (DTR) and the Incidence of Myocardial Infarction and Stroke: Takashima Stroke and Acute Myocardial Infarction (AMI) Registry (1988 to 2013)
20		Takashima Study	Increase in ambient temperature parameters is associated with lower incidence of stroke in a Japanese population: Takashima Stroke Registry, Japan, 1988-2010.
21		SESSA 1	The Cross-sectional Association between Nuclear Magnetic Resonance (NMR)-based Lipoprotein Particles and Subclinical Aortic Valve Calcification in Japanese Men
22		SESSA I & II and Brain MRI data	Seven-Day Pedometer-Assessed Step Count and Brain Volume: A Population-Based Cohort Study
23	2018.4	SESSA I & II and Brain MRI data	Step count and Cerebral Small Vessel Disease (CSVD): A Population-Based Observational Study
24		Review work as an outcome of internship at the University of Michigan, USA	Effects of physical activities on dementia-related biomarkers: a systematic review of randomized controlled trials
25			Elucidating the mechanism of tumor recurrence induced by stem cell-like cancer cells found in the abdominal cavity postoperatively
26		SESSA1, SESSA2	The association between kidney function and subclinical atherosclerosis progression evaluated by coronary artery calcification
27			Exploring the diversity and influence of microbiomes in human colorectal cancer
28			Characterization of URST4 protein as a novel biomaker and therapeutic target for oral cancer
29			Identification of URST5 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for oral cancer
30		JMICC	The association between reproductive events and cardiovascular disease risk factors
31		JMDC database	Association between adherence to warfarin and risk of thrombosis in patients with antiphospholipid syndrome.
32	2018.10	Shiga Stroke Registry	Recurrence of Stroke on With and Without Diabetes Stroke Patients
33	2019.4	SESSA1-2	Prevalence and risk factors of premature artrial contractions among Japanese
34		NIPPON DATA90	The effects of diabetes on development of ADLs disablity and IADLs p.muta　s in Japanese middle aged and elder group
35		JMICC	食事摂取パターンと血清コレステロールの関連
36	2019.10	SESSA	Association of arterial stiffness with structural brain changes and cognitive impairment among Japanese Men

学外短期研修／健康関連産業研修　実績

○学生の学外短期研修先

2014年度入学生
ジョージ国際保健研究所、インペリアル・カレッジ・ロンドン

2015年度入学生
北京大学公衆衛生学院、インペリアル・カレッジ・ロンドン、ハーバード大学、ジョージ国際保健研究所、国立健康・栄養研究所、グラクソ・スミスクライン

2016年度入学生
ジョージ国際保健研究所、インペリアル･カレッジ･ロンドン、ノースウェスタン大学、北京大学公衆衛生学院、WHO 神戸センター

2017年度入学生
シドニー大学、ミシガン大学、カルガリー大学、WHO神戸センター

2018年度入学生
インペリアル・カレッジ・ロンドン、東邦大学、ジョンズ・ホプキンズ病院、愛知県がんセンター、東京大学

REPORT ONGLOBAL RESEARCH TRAINING

髙山　雪子

(1) インターンシップの概要（派遣先・派遣期間・指導員など）

Imperial College London　（イギリス）・2016/８/29～2016/10/21・

Paul Elliott先生，Queenie Chan先生

(2) 主な研修内容

1．6th International Course in Nutritional Epidemiology 2016への参加

2. EBS（Epidemiology and Biostatistics）Departmental Seminarへの参加

3. London School of Hygiene and Tropical Medicineでの授業参加

(3) 学んだこと・後輩等に伝えたいこと

２週間に亘るNutritional Epidemiologyのセミナーコースでは世界中から栄養疫学に関連する専門家が集い、Imperial College London等の教員および専門家による最新情報を取り込んだ授業を受け、グループごとに活発な意見交換を行うことができた。このような経験は日本では決して得られるものではなく、セミナー参加者の積極性と考え方の違いに大変刺激を受けた。また、週１回行われるDepartment Seminarでは博士課程の学生や研究生による最新の研究内容を伺うことができた。インターンシップ期間がちょうど後期の授業時期と重なっていたこともあり、Imperial College Londonだけでなく他校（London School of Hygiene and Tropical Medicine）で開講されている授業に参加することもできた。授業内容は非感染性疾患だけでなく、マラリアやエボラ出血熱など感染性疾患についての授業も多く、新たな知見を取り込むことができた。現地学生の日本学生との大きな違いは、実際の社会問題とともに授業内容を真剣に捉えて受講している学生が多いこと、そして教員に対する質問が会場内から途絶えないことだと感じた。今回のインターンシップでは専門の事柄を学ぶだけでなく、教員と学生の気質と態度に大変感銘を受けた。日本の文化とは異なる生活文化を経験し、授業やセミナーを通してかけがえのない友人をつくることもできた。このようなチャンスは人生においてなかなか得られるものではない。海外で２か月間、一人で生活することに最初は抵抗を感じたが、後輩や若い学生の方には是非海外へ積極的に出て、異なる言語、異なる文化を肌で感じて刺激を受け、視野を広めることを勧めたい。

今回、このような貴重な経験を頂けたことに大変感謝している。今後の研究生活、そして疫学と公衆衛生の分野で活躍できるよう、今回のインターンシップでの経験を生かしていきたい。

The South Kensington Campus

International Course in Nutritional Epidemiology

The St Mary's hospital campus

My ID card and the working place in St Mary's hospital campus

Common dining area

The John Snow theatre in London School of Hygiene and Tropical Medicine

アジア・フィールドワーク　実績

○主なフィールドワーク先

平成29年度
インドネシア大学、ホーチミン医科薬科大学、ケニア中央医学研究所、国立健康栄養研究所、オムロン京阪奈イノベーションセンタ、中国医科大学

平成30年度
国立循環器病研究センター、Bangabandhu Sheikh Mujib Medical University、National Heart Foundation of Hospital & Research Institute at Bangladesh、㈱平和堂、甲賀保健所、草津保健所

令和元年度
オムロンヘルスケア株式会社　京都、
Amgen Astellas BioPharma K.K.、
Mongolian National University of Medical Science

REPORT ON ASIA FIELDWORK

Pham Huy Kien Tai

OMRON KeihannaTechnology Innovation Center, Kyoto, Japan

As for my main goal of learning from "real world" situations in 3rd grade of leading program, I have applied for a 2-month fieldwork permit at OMRON cooperation, where having national-wide big data of home blood pressure measurement. Most of my time in the first month was for getting familiar with R software and the database named WELLNESSLINK for developing a research topic. The graduate course in Shiga University of Medical Science had provided me a firm knowledge background and necessary skills so that I could soon establish a dataset for analyses and successfully achieved main results within very limited time of fieldwork. I was really excited to explore the real-world data in OMRON for accessing seasonal changing of day-to-day blood pressure variability. This was also my first time working in a professional industrial environment in Japan. Having this valued opportunity, first of all, I would like to express my sincere gratitude to Professor Nakajima, Professor Miura and Professor Fujiyoshi as well as all of the staffs in OMRON Healthcare research team for their constant support and supervision.

Presentation at Academic Conference, April, 2016 – March, 2017
学会発表リスト 2016年度

	氏　名	学会名	日　時	場　所	発表題目
16-1	Satoshi Shitara 設楽　智史	41st Annual Meeting of Japan Stroke Society (STROKE2016) 第41回日本脳卒中学会学術集会	April 14-16, 2016	Sapporo, Japan	Clinical analysis of pediatric stroke in our hospital
16-2	Aryandhito Widhi Nugroho	The 2nd European Stroke Organization Conference 2016	May 10-12, 2016	Barcelona, Spain	The Association Between Glomerular Filtration Rate Estimated on Admission and Acute Stroke Outcomes: The Shiga Stroke Registry
16-3	Harumitsu Suzuki 鈴木　春満	52th Annual Meeting of the Japanese Society of Cardiovascular Disease Prevention 第52回日本循環器病予防学会学術集会	June 17-18, 2016	Saitama, Japan	The Association between social factor, lifestyle/ previous medical history and subclinical depression status examined by Kessler 6 among Japanese representative population: NIPPON DATA2010
16-4	Pham Huy Kien Tai	The 10th Congress of the Asian-Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases (10th APSAVD Congress)	July 14-16, 2016	Tokyo, Japan	Coronary artery calcification among a community-based sample of Japanese men according to different risk prediction models: The Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis (SESSA)
16-5	Nguyen Hoan Le Minh	The 21st Asia Pacific Respirology Congress	Nov 11-14, 2016	Bangkok, Thailand	Long-term predictors of fatal pneumonia in a general Japanese population: NIPPON DATA80
16-6	Harumitsu Suzuki 鈴木　春満	The 27th Annual Scienetific meeting of the Japan Epidemiological Association 第27回日本疫学会学術総会	Jan 25-27, 2017	Kofu, Japan	The association between social factor, lifestyle and subclinical depression status examined by Kessler 6 among Japanese representative population: NIPPON DATA2010
16-7	Kimani Cecilia Wanjiku	American Heart Association EPI/ Life style scientific sessions	March 7-10, 2017	Portland, OR, USA	Lifestyle Factors Related to the Difference in Serum Lipids between Japanese –Americans in Hawaii and Japanese in Japan: the INTERLIPID Study
16-8	Yukiko Takayama 髙山　雪子	American Heart Association EPI/ Life style scientific sessions	March 7-10, 2017	Portland, OR, USA	Reverse Causality of the Relationship between Dietary Cholesterol and Serum Low Density Lipoprotein Cholesterol Associated With Education and Employment: the INTERLIPID Study
16-9	Nguyen Minh Thi Trang	American Heart Association EPI/ Life style scientific sessions	March 7-10, 2017	Portland, OR, USA	Association between Estimates of 24-Hour Urinary Sodium and Potassium and Blood Pressure in a Japanese Cohort: A Repeated Measure Analysis
16-10	Satoshi Shitara 設楽　智史	American Heart Association EPI/ Life style scientific sessions	March 7-10, 2017	Portland, OR, USA	Prevalence of intracranial artery stenosis and the association with conventional risk factors of cardiovascular diseases in a general population of Japanese: SESSA study
16-11	Satoshi Shitara 設楽　智史	42nd Annual Meeting of Japan Stroke Society (STROKE2017) 第42回日本脳卒中学会学術集会	March 16-17, 2017	Osaka, Japan	Prevalence of intracranial artery stenosis and the association with conventional risk factors of cardiovascular diseases in a general population of Japanese: SESSA study
16-12	Nguyen Minh Thi Trang	The 81st Annual Scientific meeting of Japanese Circulation Society 第81回日本循環器学会学術集会	March 17-19, 2017	Kanazawa, Japan	A Repeated Measure Analysis of the Effect of Urinary Sodium and Potassium Excretion on Blood Pressure in Japanese Workers

Presentation at academic conference, April, 2017 – March, 2018
学会発表リスト 2017年度

	氏　名	学会名	日　時	場　所	発表題目	Status
17-1	Nguyen Hoan Le Minh	The 57th Annual Meeting of the Japanese Repiratory Society 第57回日本呼吸器学会学術講演会	April 21-23, 2017	Tokyo, Japan	Long-term Predictors of Fatal Pneumonia in a General Japanese Population; NIPPON DATA80	presented
17-2	Harumitsu Suzuki 鈴木　春満	The 3rd European Stroke Organization Conference	May 16-18, 2017	Prague, Chez Republic	The association between the history of stroke and myocardial infarction and subclinical depressive symptom examined by Kessler 6 scale among Japanese representative population:NIPPON DATA2010	presented
17-3	Harumitsu Suzuki 鈴木　春満	The 21st International Epidemiological Assoc. IEA World Congress of Epidemiology	August 19-22, 2017	Saitama, Japan	The association between the history of stroke and myocardial infarction and subclinical depressive symptom examined by Kessler 6 scale among Japanese representative population:NIPPON DATA2010	presented
17-4	Harumitsu Suzuki 鈴木　春満	52th Japanese Medical Society of Alcohol and addiction studies 第52回日本アルコールアディクション医学会学術総会	September 8-9, 2017	Yokohama, Japan	飲酒量やアルコールに関連する肝機能マーカーと抑うつ傾向との関連	Presented
17-5	Pham Huy Kien Tai	52th Japanese Medical Society of Alcohol and addiction studies 第52回日本アルコールアディクション医学会学術総会	September 8-9, 2017	Yokohama, Japan	Smoking associates with higher incidence and progression of coronary atherosclerosis in a community-based sample of Japanese men: The Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis (SESSA)	Presented
17-5A	Pham Huy Kien Tai	The 10th Vietnam-Japan Scientific Exchange Meeting VJSE2017	September 9, 2017	Yokohama, Japan	Best Presentation Award Smoking associates with higher incidence and progression of coronary atherosclerosis in a community-based sample of Japanese men: The Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis (SESSA)	Presented
17-6	Siddiquee Ali Tanweer	52th Japanese Medical Society of Alcohol and addiction studies 第52回日本アルコールアディクション医学会学術総会	September 8-9, 2017	Yokohama, Japan	Drinking status and cognitive function among cognitively intact elderly Japanese men	Presented
17-7	Azusa Shima 志摩　梓	52th Japanese Medical Society of Alcohol and addiction studies 第52回日本アルコールアディクション医学会学術総会	September 8-9, 2017	Yokohama, Japan	Relapse rate of smoking was higher in young employees: an occupational cohort study	Presented
17-8	Hiroyoshi Segawa 瀬川裕佳	40th Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Hypertension 第40回日本高血圧学会総会	October 20-22, 2017	Ehime, Japan	Diurnal Rhythm of Urinary Sodium-Potassium Ratio in Patients with Essential Hypertension and Primary Aldosteronism	Presented
17-9	Md Maruf Haque Khan	American Heart Association International Stroke Conference	January 24-26, 2018	L.A., USA	The Association Between Coronary Artery Calcium And The Cerebral Small Vessel Disease: A Community Based Cross Sectional Study	presented
17-10	Azusa Shima 志摩　梓	The 28th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association 第28回日本疫学会学術総会	February 1-3, 2018	Fukushima, Japan	喫煙状況と体重変化の性差：職域コホートにおける5年間の追跡	presented

Presentation at academic conference, April, 2018 – March, 2019
学会発表リスト 2018年度

	氏　名	学会名	日　時	場　所	発表題目
18-1	Keiko Fuse, 布施　恵子	The 61st Annual Meeting of the Japan Diabetes Society, 第61回日本糖尿病学会	May 24-26, 2018	Tokyo, Japan	CTによる肝脾CT値比と糖尿病発症リスクとの関連：滋賀動脈硬化疫学研究
18-2	Hiroyoshi Segawa, 瀬川　裕佳	The 61st Annual meeting of the Japanese Society of Nephrology, 第61回日本腎臓病学会	June 8-10, 2018	Niigata, Japan	Does the association of red and processed meat consumption with cardiovascular mortality modified by renal function?: NIPPON DATA80, 赤身・加工肉摂取と心血管疾患死亡との関連は腎機能により異なるか？：NIPPON DATA80
18-2A	Hiroyoshi Segawa, 瀬川　裕佳	The 61st Annual meeting of the Japanese Society of Nephrology, 第61回日本腎臓病学会	June 8-10, 2018	Niigata, Japan	シンポジウム10「CKDにおける日常診療の臨床栄養学」，シンポジスト，慢性腎臓病(CKD)と食事パターン
18-3	Yukiko Takayama, 髙山　雪子	The 54th Annual Meeting of the Japanese Society of Cardiovascular Disease Prevention 第54回日本循環器病予防学会	June 22-23, 2018	Sapporo, Japan	日本人一般住民男性における腸内細菌と血清LDLコレステロールとの関連：SESSA 研究
18-4	Harumitsu Suzuki, 鈴木　春満	The 54th Annual Meeting of the Japanese Society of Cardiovascular Disease Prevention 第54回日本循環器病予防学会	June 22-23, 2018	Sapporo, Japan	家族構成と循環器疾患、心不全と総死亡との関連: NIPPON DATA90
18-5	Hiromi Yamauchi, 山内　宏美	The 54th Annual Meeting of the Japanese Society of Cardiovascular Disease Prevention 第54回日本循環器病予防学会	June 22-23, 2018	Sapporo, Japan	飲酒量と冠動脈疾患危険因子および食事を含めた生活習慣との関連: INTERLIPID日本研究
18-6	Takashi Waki, 和氣　宗	The 54th Annual Meeting of the Japanese Society of Cardiovascular Disease Prevention 第54回日本循環器病予防学会	June 22-23, 2018	Sapporo, Japan	地域一般住民高齢者を対象とした腹囲と領域別認知機能との関連：高島研究
18-7	Keiko Fuse, 布施　恵子	The 78th Scientific Sessions of American Diabetes Association, アメリカ糖尿病学会	June 22-26, 2018	Orlando, FL, USA	The Ratio of Liver to Spleen (L/S ratio) for CT Attenuation Value is Associated with the Onset of Diabetes Mellitus in a Community-based Sample of Japanese men: , The Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis (SESSA)
18-8	Siddiqque Ali Tanweer	Alzeheimer's Diseases Association International Conference　ADI2018 , 国際アルツハイマー病学会	July 26-29, 2018	Chicago, IL, USA	Alcohol drinking status and cognitive function among cognitively intact elderly Japanese men
18-9	Pham Huy Kien Tai	European Society of Cardiology Congress 2018	August 24-29, 2018	Munchen, Germany	Smoking associates with higher incidence and progression of coronary atherosclerosis in a community-based sample of Japanese men: a cohort study
18-10	Nahar Nurun	European Society of Cardiology Congress 2018	August 24-29, 2018	Munchen, Germany	Structural and Dynamic Changes in the Mitral Annulus, associated with Degenerative Mitral Regurgitation and Chronic Atrial Fibrillation.
18-11	Liu Yuyan	The 29th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association	January 30-31	Tokyo, Japan	Association of CT-based obesity indices with carotid atherosclerosis in general Japanese men
18-12	Azusa Shima, 志摩　梓	AHA EPI/lifestyle Scientific Sessions2019	March 5-8	Houston, USA	Household salt intake level is associated with all-cause, cardiovascular and stroke mortality: A 24-year follow-up of NIPPON DATA80, "Paul Dudley White International Scholar Award".

Presentation at academic conference, April, 2019 – March, 2020
学会発表リスト 2019年度

	氏　名	学会名	日　時	場　所	発表題目
19-1	Khan Md Maruf Haque	51st Annual Scientific Meeting of the Japan Atherosclerosis Society 第51回動脈硬化学会	July 11-12	Kyoto 京都	The Association Between Coronary Artery Calcium and The Subclinical Cerebrovascular Disease: A Community Based Study
19-2	Moniruzzaman	Alzheimer's Association International Conference	July 12-18	L. A., USA	Objectively Measured Physical Activity and Brain Volume in Japanese Adult Men: the Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis
19-3	Waki Takashi 和氣　宗	Alzheimer's Association International Conference	July 12-18	L. A., USA	Waist Circumference and Domain-Specific Cognitive Function among the Non-Demented Japanese Elderly: Results from the Takashima Study
19-4	Tsevegjav Bayarbat	2019 the Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting 第17回日本臨床腫瘍学会	July 18-20	Kyoto 京都	Characterization of URST5 as a biomarker and therapeutic target for oral cancer
19-5	Zhu Ming	2019 the Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting 第17回日本臨床腫瘍学会	July 18-20	Kyoto 京都	Characterization of URST4 as a new cancer biomarker and therapeutic target for oral cancer
19-6	Vu Thien	ESC Congress 2019-European Society of Cardiology	August 31- Sep 4	Paris, France	Lipoprotein Particle Profiles compared with Standard Lipids in the Association with Subclinical Aortic Valve Calcification in Apparently Healthy Japanese Men
19-7	Yamauchi Hiromi 山内　宏美	ESC Congress 2019-European Society of Cardiology	August 31- Sep 4	Paris, France	The relationship of alcohol consumption with risk factors of coronary heart disease and the intake of macro- and micro-nutrients in Japanese: The INTERLIPID Study
19-8	Tsevegjav Bayarbat	The 78th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 第78回日本癌学会学術総会	September 26-28, 2019	Kyoto 京都	URST5 is a new prognostic biomarker and therapeutic target for oral cancer
19-9	Zhu Ming	The 78th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 第78回日本癌学会学術総会	September 26-28, 2019	Kyoto 京都	Characterization of URST4 as a novel biomarker and therapeutic target for oral cancer
19-10	Waki Takashi 和氣　宗	第42回日本高血圧学会	October 25-27	Tokyo	わが国における 高血圧治療薬の使用実態：レセプト情報・特定健診等情報データベースを用いた分析 Status of Anti-hypertensive Medications in Japan: Analysis Using National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan
19-11	Shima Azusa 志摩　梓	第42回日本高血圧学会	October 25-27	Tokyo	未治療高血圧者への健診現場における即日の紹介状発行が外来受診率向上に及ぼす効果　クラスターランダム化比較試験

	氏　名	学会名	日　時	場　所	発表題目
19-12	Ali Haidar Syaifullah	第62回日本脳循環代謝学会学術集会	Nov 28-30, 2019	Sendai 仙台	Voxel-Based Morphometry Brain Assessment on Alcohol Drinking in Healthy Japanese Men: A Population-Based Study
19-13	Byambajav Tserenlkham	第30回日本疫学会学術総会	February 20-22, 2020	Kyoto 京都	Association between adherence to warfarin and risk of thrombosis in patients with antiphospholipid syndrome
19-14	Ebtehal Salman	AHA epi lifestyle 2020 Scientific sessions	March 3-6, 2020	Phoenix, AZ, USA	Relationship of Four Blood Pressure Indexes To Subclinical Cerebrovascular Diseases Assessed by Brain MRI in General Japanese Men
19-15	Ebtehal Salman	第84回日本循環器学会学術集会 JCS2020/APSC2020	March 14, 2020	Kyoto 京都	Relationship of four blood pressure indexes to subclinical cerebrovascular diseases assessed by brain MRI in general Japanese men
19-16	Khan Kawser	第45回日本脳卒中学会学術集会	March 26-28, 2020	Yokohama 横浜	Diurnal temperature range and stroke in a Japanese population: Takashima Stroke Registry, Japan, 1988-2010

研究論文一覧

Publication list ／ 原著

	氏名／入学年度	題　目	状　況
1	Pham Huy Kien Tai 2015S	Pham T, Fujiyoshi A, Arima H, Tanaka MS, Hisamatsu T, Kadowaki S, Kadota A, Zaid M, Sekikawa A, Yamamoto T, Horie M, Miura K, Ueshima H, for the Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis (SESSA) Research Group. Association of Coronary Artery Calcification with Estimated Coronary Heart Disease Risk from Prediction Models in a Community-Based Sample of Japanese Men: The Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis (SESSA). J Atheroscler Thromb, T 25: 477-489, 2018	Published
2	Aryandhito Widhi Nugroho 2014A	Nugroho AW, Arima H, Miyazawa I, Fujii T, Miyamatsu N, Sugimoto Y, Nagata S, Komori M, Takashima N, Kita Y, Miura K, Nozaki K. The association between glomerular filtration rate estimated on admission and acute stroke outcome: the Shiga Stroke Registry. J Atheroscler Thromb. 15: 570-579, 2018	Published
3	Aryandhito Widhi Nugroho 2014A	Nugroho AW, Arima H, Takashima N, Fujii T, Shitara S, Miyamatsu N, Sugimoto Y, Nagata S, Komori M, Kita Y, Miura K, Nozaki K. The JAGUAR score predicts 1-month disability/death in ischemic stroke patient ineligible for recanalization therapy. J Stroke Cerebrovasc Dis, Vol.27, No. 10(October), 2018: pp 2579-2586	Published
4	Takayama Okami Yukiko 2015S	Yukiko Okami, Hirotsugu Ueshima, Yasuyuki Nakamura, Nagako Okuda, Hideaki Nakagawa, Kiyomi Sakata, Shigeyuki Saitoh, Akira Okayama, Katsushi Yoshita, Sohel R. Choudhury, Queenie Chan, Paul Elliott, Jeremiah Stamler, Katsuyuki Miura, for the INTERMAP and INTERLIPID Research Groups. The Relationship of Dietary Cholesterol with Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Confouding by Reverse Causality: The INTERLIPID Study. J Atheroscler Thromb. 2019;26:170-182.	Published
5	Nguyen Thi Minh Trang 2014A	Trang N, Miura K, Tanaka Mizuno S, Tanaka T, Nakamura Y, Fujiyoshi A, Kadota A, Tamaki J, Takebayashi T, Okamura T, Ueshima H. members of the HIPOP-OHP Research Group Association of blood pressure with estimates of 24-hour urinary sodium and potassium excretion from repeated single spot urine samples. Hyper Res 2018; published online:06 Dec. 2018	Published
6	Kimani Cecilia Wanjiku 2014A	Cecilia Kimani, Aya Kadota, Katsuyuki Miura, Akira Fujiyoshi, Maryam Zaid, Sayaka Kadowaki, Takashi Hisamatsu, Hisatomi Arima, Minoru Horie, Hirotsugu Ueshima. Differences between Coronary Artery Calcification and Aortic Artery Calcification in relation to Cardiovascular Disease Risk Factors in Japanese Men. J Atheroscler Thromb, 2019;26:452-464	Published
7	Takayama Okami Yukiko 2015S	Yukiko Okami, Hirotsugu Ueshima, Yasuyuki Nakamura, Keiko Kondo, Aya Kadota, Nagako Okuda, Tomonori Okamura, Katsuyuki Miura, for the NIPPON DATA80/90 and NIPPON DATA2010. Time-related changes in relationships between the Keys score, dietary lipids, and serum total cholesterol in Japan;NIPPONDATA80/90/2010. Circ J, 2018 Dec 25;83(1):147-155	Published
8	Liu Yuyan 2015S	Yuyan Liu, Akira Fujiyoshi, Hisatomi Arima, Aya Kadota, Sayaka Kadowaki, Takashi Hisamatsu, Itsuko Miyazawa, Keiko Kondo, Ikuo Tooyama, Katsuyuki Miura, and Hirotsugu Ueshima for the SESSA Research Group. Anthropometric Obesity Indices were Stronger than CT-Based Indices in Associations with Carotid Intima-Media Thickness in Japanese Men. J Atheroscler Thromb, 2019. published online:May 15, 2019	Published
9	Suzuki Harumitsu 2015S	Harumitsu Suzuki, Aya Kadota, Nagako Okuda, Takehito Hayakawa, Nobuo Nishi, Yasuyuki Nakamura, Hisatomi Arima, Naoko Miyagawa, Atsushi Satoh, Naomi Miyamatsu, Masahiko Yanagita, Hiroshi Yatsuya, Zentaro Yamagata, Takayoshi Ohkubo, Tomonori Okamura, Hirotsugu Ueshima, Akira Okayama, Katsuyuki Miura, and for the NIPPON DATA2010 Research Group. Socioeconomic and lifestyle factors associated with depressive tendencies in general Japanese men and women: NIPPON DATA2010. Environmental Health and Preventive Medicine, 2019:24-37	Published
10	Shitara Satoshi 2015A	Satoshi Shitara, Akira Fujiyoshi, Takashi Hisamatsu, Sayuki Torii, Sentarou Suzuki, Takahiro Ito, Hisatomi Arima, Akihiko Shiino, Kazuhiko Nozaki, Katsuyuki Miura, Hirotsugu Ueshima, for the SESSA Research Group. Intracranial Artery Stenosis and It's Association of Japanese Men. Stroke, 2019. published online:August 10, 2019	Published
11	Sabrina Ahmed 2019S	Sabrina Ahmed, M. S. A. Mansur Ahmed, Palash C. Banik, Razib Mondal, Pradip K. Sen Gupta. Association between behavioural, metabolic risk factors of non-communicable diseases and socio-demographic factors among Bihari population in Bangladesh. Int J Community Med Public Health. 2019 Oct;6(10):4132-4138	Published
12	Shima Azusa 2016S	Azusa Shima, Naomi Miyamatsu, Katsuyuki Miura, Naoko Miyagawa, Nagako Okuda, Katsushi Yoshita, Aya Kadota, Harumitsu Suzuki, Keiko Kondo, Tomonori Okamura, Akira Okayama, Hirotsugu Ueshima, for the NIPPON DATA80 Research Group. Relationship of household salt intake level with long-term all-cause and cardiovascular disease mortality in Japan: NIPPON DATA 80, Hyper Res. 2019. Published on line: Nov. 21, 2019	Published
13	Khan Md. Maruf Haque 2016S	Md Maruf Haque Khan, Akira Fujiyoshi, Akihiko Shiino, Takashi Hisamatsu, Sayuki Torii, Sentaro Suzuki, Ayako Kunimura, Hiroyoshi Segawa, Aya Kadota, Takayoshi Ohkubo, Kazuhiko Nozaki, Katsuyuki Miura, Hirotsugu Ueshima, for the SESSA Research Group. The Association between coronary artery calcification and subclinical cerebrovascular diseases in men: An observational Study. J Atheroscler Thromb, 2020. Published on line: Jan. 22, 2020.	Published
14	Waki Takashi 2017S	Takashi Waki, Sachiko Tanaka, Naoyuki Takashima, Hajime Takechi, Takehito Hayakawa, Katsuyuki Miura, Hirotsugu Ueshima, Yoshikuni Kita, and Hiroko H Dodge. Waist Circumference and Domain-Specific Cognitive Function among Non-demented Japanese Older Adults Stratified by Sex: Results from the Takashima Cognition Study. J. Alzeheimers Dis. 2020	Accepted
15	Nakagawa Keiko 2016S	Keiko Fuse, Aya Kadota, Keiko Kondo, Katsutaro Morino, Akira Fujiyoshi, Takashi Hisamatsu, Sayaka Kadowaki, Itsuko Miyazawa, Satoshi Ugi, Hiroshi Maegawa, Katsuyuki Miura, Hirotsugu Ueshima for the SESSA Research Group. Liver fat accumulation assessed by computed tomography is an independent risk factor of in population-based study: SESSA (Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis). Diabetes Research and Clinical Practice, 2020.	Accepted
16	Siddiquee Ali Tanweer 2016S	Ali Tanweer Siddiquee, Aya Kadota, Akira Fujiyoshi, Naoko Miyagawa, Yoshino Saito, Harumitsu Suzuki, Keiko Kondo, Hiromi Yamauchi, Takahiro Ito, Hiroyoshi Segawa, Ikuo Tooyama, Katsuyuki Miura, Hirotsugu Ueshima, for the SESSA Research Group. Alcohol consumption and cognitive function in general elderly Japanese men. Alcohol, 2020.	Accepted

Publication list ／ 総説・著書

Enroll ment	Student	Title of publication	
2016S	瀬川　裕佳	降圧治療のメタ解析は、なぜ腎不全発症抑制を支持しないのか 腎・高血圧の最新治療. Vol.6 No.3:119-125, 2017.	総説
2015S	岡見　雪子（共著）	東洋人および西洋人における未加工/加工の赤身肉および鶏肉の摂取量と血圧との関連: 血圧 先端医学社. 24(4):10-11. 2017.	解説
2015S	岡見　雪子（共著）	解説1. わが国の栄養摂取量の現状と推移. 循環器内科 科学評論社. 83(4):381-388. 2018.	総説
2015S	岡見　雪子（共著）	食塩摂取量と血圧の関連はエネルギー摂取量で異なる：DASH-Sodium試験の二次解析: 血圧 先端医学社. 25(10):10-11. 2018.	解説
2016S	布施　恵子	糖尿病・メタボリックシンドロームの予防/生活習慣改善支援 岡田唯男（編）『予防医療のすべて』中山書店：130-132, 2018	著書
2016S	瀬川　裕佳	エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018 Evidence-based Clinical Practice Guideline for CKD 2018 編集　日本腎臓学会　東京医学社：17-19, 2018	著書
2016S	瀬川　裕佳	腎疾患と食事パターン　特集腎栄養学再訪 腎と透析　Vol.86 No.4: 421, 2019	総説
2016S	瀬川　裕佳	腎疾患と食塩　特集腎疾患と栄養 日腎会誌 2019；61(5)：574-578	総説

リーディングプログラム生の論文に関する記者説明会を行いました

平成28年度入学生志摩　梓さんの論文『Relationship of household salt intake level with long-term all-cause and cardiovascular disease mortality in Japan: NIPPON DATA80』に関する記者説明会を本学アジア疫学研究センターでおこないました。

家族は同じ食事を取る機会が多いにもかかわらず、これまでに家族単位の食塩摂取量と生命予後の関連についての検討は、世界的にもほとんど行われていませんでした。この志摩さんの論文は、家庭全体での食塩の取り過ぎが、長期にわたる死亡リスクとなることを示唆した貴重な論文です。

学生生活

Must-Do's for all Graduate Students

The following are requirements of all graduate students in the Leading Program:

1. Contribute to the department

Department refers to where you are registered and/or where you perform your research. Contribution to the work as a whole, as well as writing your manuscript/doctoral thesis is necessary for obtaining your degree. Only writing papers is not appreciated.

E.g. Help with data collection, data cleaning, clerical work, preparation of meeting room (for guest lecturers, Leading Program classes, Journal club, academic meeting, etc.)

****Refusal to contribute to the department because of other obligations will not be accepted.**

2. Be active in offering help

Find out what you can do for the department by asking others.

E.g. Ask supervisors or other faculty and staff to find out where help is needed.

3. Improve your Japanese language skills

Learning Japanese is important not only for helping with department work and studies (data cleaning, analysis, etc.), but is also important for your daily life in Japan.

E.g. Attend Japanese classes offered by SUMS or consider studying in your spare time.

4. Exchange knowledge with each other

Senior students are expected to assist junior students, as part of TA/RA work. Students are designated into "*Helping and Learning from Each Other*" (HELO) groups. All students are expected to discuss research topics, analyses, and difficulties within (but not limited to) these groups.

E.g. Meet with your "HELO" group members prior to presenting at academic meeting to discuss research, areas for improvement, possible questions, etc.

○Graduate Students Must do（学生心得）

リーディングプログラム学生に期待される役割と態度を４項目の短い標語にて明文化し、異なる文化的背景をもった学生が日本で学業を行う際の指針としました。

○HELO（Helping and Learning from Each Other）

学生を学年横断的にグループ分けし「屋根瓦方式」の学生間相互扶助の仕組み作りを行いました。上級生がこれまで培った学問的知識を下級生に教えることで自分の学習の理解を深めることと、下級生が上級生に、学業・研究・私生活上の不安や疑問を相談しやすくし、より充実した生活を可能とすることを目的としています。

○若鮎祭（学園祭）

本学学園祭「若鮎祭」でリーディングプログラムの大学院生が模擬店を出店しました。

○授業風景

学生の主な就職先

○平成25年度入学生

国立インドネシア大学、ホーチミン医科薬科大学、Kenya Medical Research Institute（KEMRI）

○平成26年度入学生

和歌山県立医科大学、ホーチミン医科薬科大学・同大学病院、中国医科大学

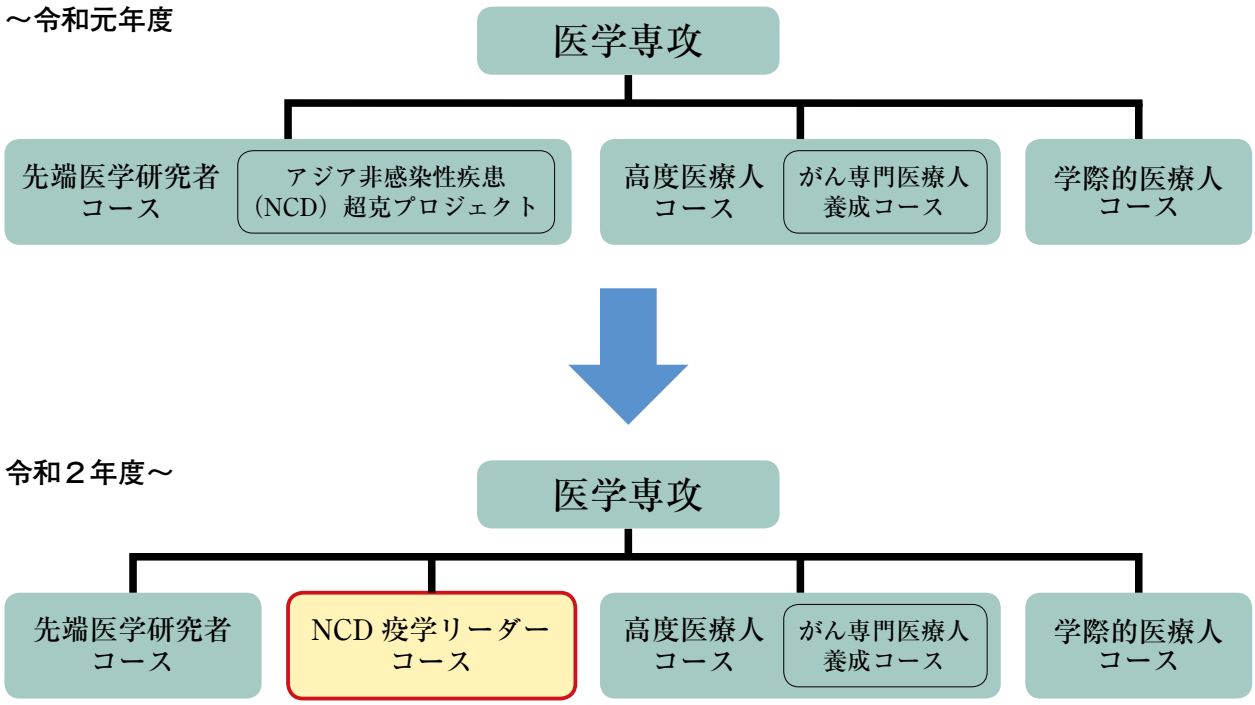
4

今後の展開

Leading Graduate Program for Reducing the Burden of
Non-communicable Disease（NCD）in the Asian Pacific Region

NCD疫学リーダーコース

補助期間終了後は、新コース「NCD疫学リーダーコース」として独立し、プログラムを継続します。



【NCD疫学リーダーコース】

非感染性疾患（Non-Communicable Diseases：NCD）に関する研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指す。

① 非感染性疾患（NCD）に関する医学的知識、疫学方法論、生物統計学の高度な技術、世界の公衆衛生改善に対する構想力を兼ね備えたリーダーの育成

② 英語コミュニケーションに熟達し、論理的議論ができるグローバルリーダーの育成

③ 大規模疫学研究、国際共同研究を体験し、一流の研究能力をもつアカデミックリーダーの育成

④ 健康関連産業や保健医療行政機関で活躍する現場力をもつリーダーの育成

また、学生選抜において他のコースの出願書類に加え、英語小論文などの提出をもとめており、面接を英語で実施しています。

研究基礎力試験:QE（Qualifying Examination）の横展開

研究基礎力試験：QE（Qualifying Examination）とは、博士論文研究を主体的に遂行できる基礎力を身につけているか包括的に審査する仕組みです。

これまでリーディングプログラムに所属している学生にのみ実施していたQEを、令和元年度から博士課程の全学生に実施し、QE合格を学位論文審査出願資格としました。

・ポスター発表会形式で研究進捗状況を報告
・審査員が評価項目にそって 50 点満点で採点し、合否判定を行う

リーディングプログラム生のネットワークの構築

本プログラムのFacebookを開設し、プログラム生・修了者・教職員の情報交換、交流の場として活用しています。

おわりに

アジア疫学研究センター開所後間もない2013年の秋に本プログラムが採択され、2014年以降37名の学生たちが国内外から入学しました。うち25名がアジアを中心とする各国からの留学生です。学生たちはアジア疫学研究センターを学びの場として、本学における各種の生活習慣病疫学研究あるいは各講座の臨床研究に取り組みました。毎週月曜には研究進捗カンファレンスやジャーナルクラブにおいて英語で熱い議論を交わしました。また、本学の多彩なネットワークを生かして、海外の研究機関、国際機関、企業、行政機関などでの充実したインターンシップも経験しました。そしてこれまでに10名が博士（医学）を取得し、巣立っていきました。今後の日本、アジア、そして世界の非感染性疾患（NCD）対策を牽引するリーダーとして活躍してくれるものと確信しています。

４月以降も23名が博士取得を目指して本プログラムで勉学を続けます。また、本プログラムは４月以降、「NCD疫学リーダーコース」として生まれ変わり、新たな学生の受け入れを始めます。疫学をベースとしてNCD対策のリーダーを育成するわが国唯一の博士課程として、教育体制の整備を進めたいと思います。

本プログラムは全学体制で取り組むプログラムとして学内の多くの教員にご尽力いただきました。また、教育に参画いただいた国内外、産官学の広い分野の専門家の皆様、終始支えていただいた大学執行部、学生課をはじめとする事務の皆様、日本学術振興会、多くのアドバイスをいただいたプログラムオフィサーの那須民江先生、そして本学の疫学研究の礎を築かれた上島弘嗣名誉教授に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

三浦　克之

プログラムコーディネーター

社会医学講座（公衆衛生学）教授／アジア疫学研究センター　センター長

滋賀医科大学 博士課程教育リーディングプログラム

アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト　報告書

平成25年10月－令和２年３月31日

令和２年３月発行

編集・発行　国立大学法人滋賀医科大学
学生課大学院教育支援係
〒520-2192　滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL 077-548-2111

NCD

滋賀医科大学 博士課程教育リーディングプログラム